紀伊國名所圖會

五之巻

海士郡

ル 4
325
8

呂門
325
8

紀伊國名所圖會巻之五

光福寺
中言神社
身代地藏
金藏院
金剛寶寺（本坊護國院　多門院）
宗祇塚
布袋松
琴の浦
明見社
筥崎
產神四座

大宅の松
大日堂
明見社
塩竈
名所と（鬼山堂　二重塔　二ノ滝　棒ヶ崎　平等院　室觀院　海龍院　數屋坊）
名產西瓜
仲結座鳥
寿日神社
杉山の鼻
中言神社

小雜賀
汐見橋
裝束の松
若宮八幡宮（鎮守祠　塚　滝の坊　杜内堂　二王門　普門院）
名所の濱
濱の宮
仲結觀音
船尾
汐内濱
黒江仲坊

雜賀川（荒井　泊船　船橋）
三菩濱
福藤院
牛頭天王祠（大師堂　應同樹　室性院　念佛堂　千手　松樹院　淵）
名所の浦
紀伊文昌宮
吾福ち
大アの全圖
術道場
上人仲手植の名木（日林泉）

黒牛潟
龕堂
若宮八幡宮
沖ノ門の所
栗田神社
松代王子
塚跡
車宮元泉
幡川瀑布
雨乃宮
地獄寺
蓮華寺

所在現詞
岡山法慶上人廟
仙王社
中納言宗顕卿墓
供所
足形石
瀑布
熊宮社

黒江橋
城跡
池の名
高里神社
城跡
三上山
延命寺
衣宮山
滝宮
鬼の城大岩
善提寺
正八幡宮

門挽物の図
于潟浦
永正寺
阿弥陀ち
徳蓮院
春日神社
百艸明神
十二所権現社
漳林寺
苗取松
漳定寺
神宮寺

岡山堂
復寺祠
六字名號石
紀亨寺

流池
大鼓寺
潟村
大野坂
神宮ち
称名ち
願成ち
岡山堂
楼

下居神社
堂の浦ち
浦
救世寺
宮殿辺旧宅跡

大野
名高浦
地蔵堂
紀神社
秋戸王子
沖霊神社
亀井六郎旧宅跡
中道寺
筆松
池ぶくち
沈亨寺

廃秋迦寺
愛川
名高川
船津沖
浄土寺
沈亨ち
芳白浦
芳白松
大五尼山
塙津湊
神宮寺

大堂城跡
井松原
ち会ち
柳平戸

松本三郎亀井六郎
番場名修理大夫の碑石

藤白里
芳白王子社
芳白関屋跡
了賢ち
宝塔
柳神社
相生松
自然生
石鳥居
衣掛松
手洗鉢
飯盛山
上人
芳白の沖坂
蛭子神社
岩室跡
井戸の底
廃極楽寺
亀井の泉
沈木三郎の宅
蛭子神社

流水杳無際片
片殘華逐何如
碧藻間偏然泝
羣玉　后隱聰題

壽日山地藏院光福寺　千手村にあり言宗

大師堂　弘法大師の作なり四尺八寸形をうつす大師八十八ヶ所の第八十八ヶ所に配する像

支地菩薩は大悲願力の光明一切衆生と長殿一切衆生の

大宅の松　日村長寺畑にあり

小雜賀　中手平村

雜賀川　雜賀川は吉野川の下流にして西の方

宇治川　宇治川は南にたゞちに雜賀川より

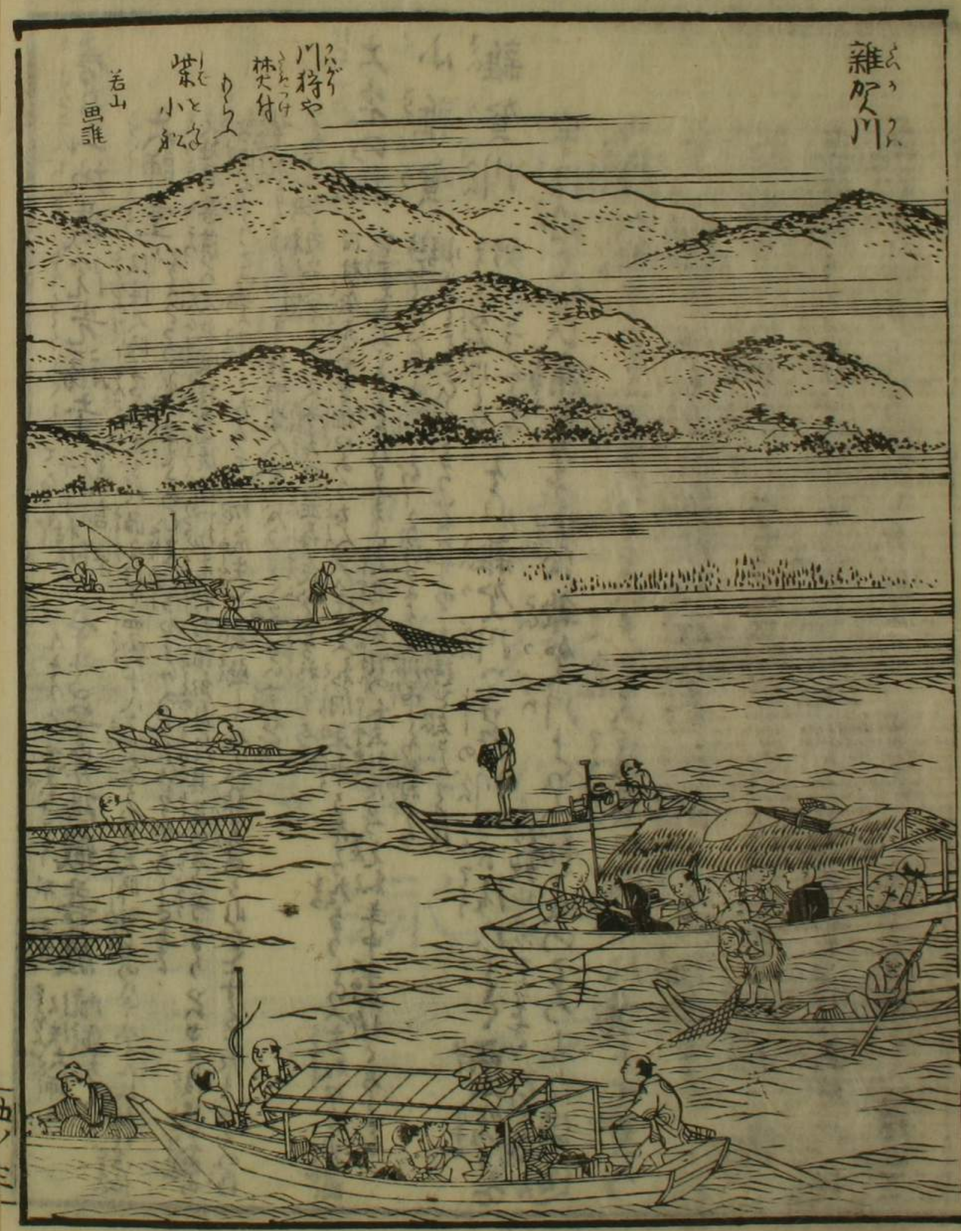
の漁人船すゞみふ暑ふつゝ夕暮の涼量いかゝに嘆して星ろ

ゞ秋を待ち網船軽粉の長れ偶よ本の切をまゞゝた

借ひ付く江中に引かゞりつゝ所よりたゞうよもあ中の業と迄て

思ふゆゝ地びたゝ彼舟の船ようりふ月見あやた面

白きゝつゞうゝ中秋の月い生石がゝよう出く狼を


雑賀川
川狩や
棹先付
わらへ
紫と
小船
若山
画誰

泛船和歌浦
次男弘美韻
扁舟一棹
弱浦隈。多
少風光豈
易裁。偃浪
彩虹橋様
絶書空斜
雁字行開。
欲拐朱貝
底深浅將
伴白鷗岸
去來。無限
烟波目繍
々。坐思帝
子意悠哉。
崖弘毅剛
先
熊野

三千界の景色あらて流れんに棹の音蕭條くして玉津岑の名も
わかろげなるに東にハ名所山あり半腹ハ絶三井寺今剣宮寺舊
をみるに西ハ愛宕山弥勒寺山小町ヶ峰甲崎低子松雑賀の
城墟ハたゞたゝるハの絶頂に妙見堂あり此山いとのゝ武
祢德兩帝の宮殿構の業跡にして南ハたゞきく絶嶮の巖石
あり俗ハ伽羅山とハ其ふもとに松林の中に玉津岑明神の
宮殿神社とハたゞたゝるハ前ハ海あり小樓あり風南の
勝景名區とハたゞたゝるハたりき

紹述先生文集曰自小貫生宅前小港放舫而到布曳海淺沙舟膠以手掬泥必得二三蜆子遂羹而食之小河豚上釣者多亦不中食既而軽陰雷作有舟而呼者乃下出丈人遺人馳東下暑

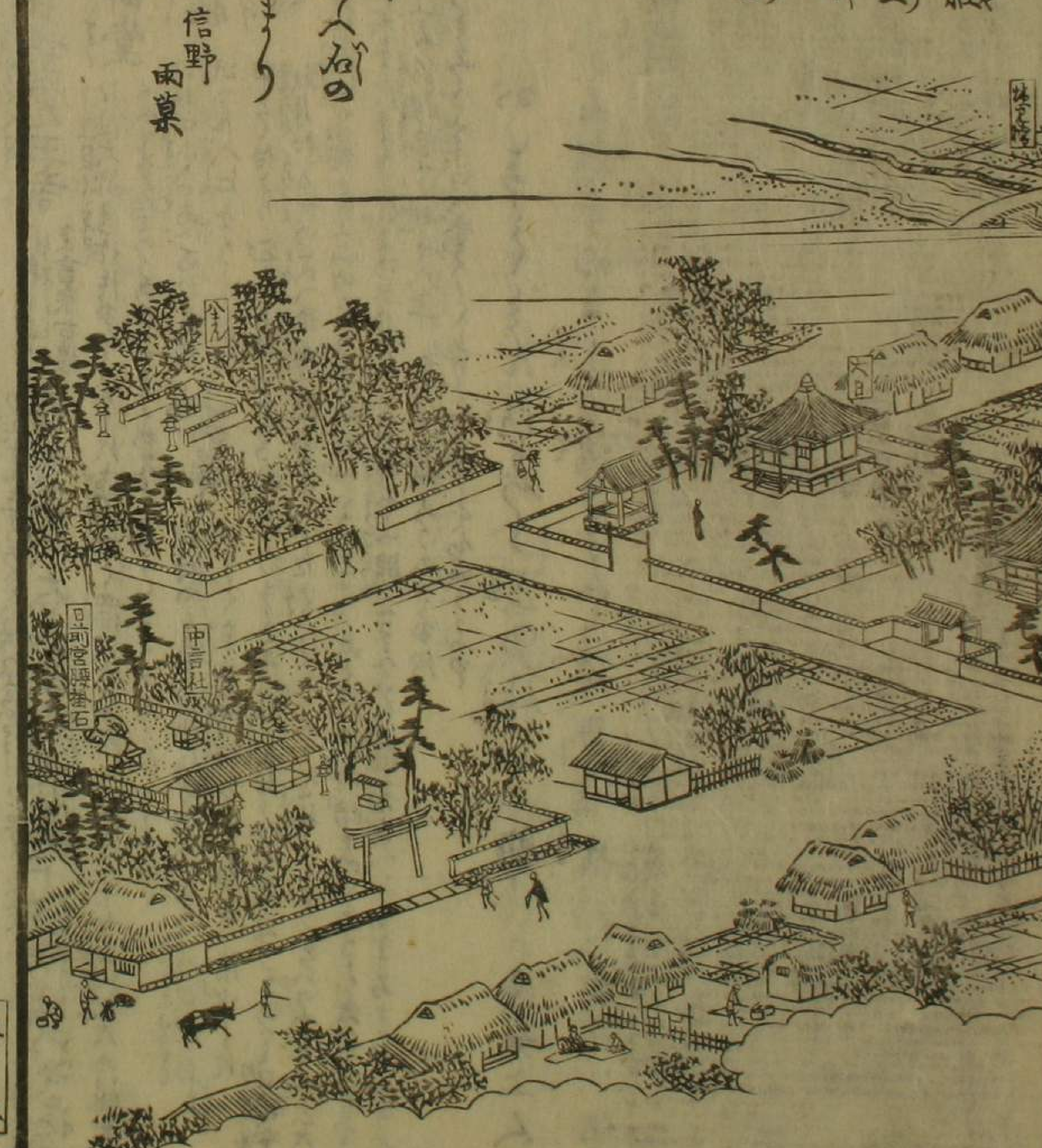
くゝかゝ棹さす舟のさゝなみの　嵐雪
すゝしさや舳へたゝくなみのうち　涼帽
岡辺のうゝろ姿やあやのくま　其角

中言神社　田冠村西にあるこの生古社に例文祀九月十六日為社の中ハ俗の文ように
明祭宮とゝたまうるのゝたほ便とうひゝうい〳〵くいるにたん玉

通巡山大日堂覚王寺　同村にあり　文言宗古義　本尊丈六大日如來　座像作不知　脇檀十六羅漢のそる像
大師堂　弘法大師そ作たるひゝうたゝ　四国八十八ヶ所と巡拝八十七ヶ所ハ市泉寺
汐見橋　同村の小谷あるうたゝ　山の井　同村のゝるゝ二町ほの山上にあり清水素白
三者嶺　甲ゝて村より三ろ〳〵村ゝ峠たりまゝ市作ゝ糸たりけゝ　秋月村乃代の宮へ市遷座あるゝ峠たりまゝ市作ゝ糸たりけゝ
居さゝた雁乃巣ゝ山のゝう雁乃巣ゝ山のゝう雁乃巣ゝ　天御祖ゝ　日前宮
遷如上人紀伊国名文明十八年三月十日田ゝろのゝ
ゝろ〳〵ゝゝ〳〵ゝゝ〳〵ゝゝ

中言神社
大日堂
汐見橋
八幡宮

春の日や　いとうへ向しの　あさまり
信野　雨菓



よりさとく呼しころ其ころに三ところ村きくの入口にあり 天正年中の兵発に亡て
銘やいく荒廃せしを元禄十五のとし同村光明寺の禅門其学文おほくとうもりて
ところなきしめなりよつく其の地に寄たくすへのちうえん像をとむらう里老社
帳のあるさ其をいつとくたるしめるの地に安置し文化三丙寅年五月日本国内の結よや
未遂あるものつくれるやう

明見社

三ところ村小栗の山よりこれ布村くのむらの生土神にしく例祭九月廿三日なり
当社は五ケのしやう吉原むら中言のうらんしゆうすくへ
同村の中にあり土人らよふるくへ流の里より日前宮の神縁秋月村よ
遷座ありしとこれくるく神装束とおなたり村人山中よりかけらるを
よう来りく市野の装束よりひしよりさ三者村よ三者と云に蓮如上人紀行に

装束の松

来くりんまん　社装束の御茶の師
蓮如上人

海見山福壽院

同村よありちら言宗古義
紀三井山護国院に属れ

大師堂

弘法大師の像作
本尊十一面観世音
長二尺

海見山金蔵院

同村にあり真言宗古義
紀三井山護国院に属れ
本尊薬師佛
弘法大師の作

大師堂

弘法大師の像作たりといふ 四国八十八ヶ所と移す八十九番の紀れ
当所の大師と号し すこぶる霊験あり 紀三井寺の末の寺なり他所よ比類

竈

三ところを云ふ 紀三井寺の奥院なり

塩

すなのなし 昔は塩をやくれ可なり
世中云宮地氏のあるを家く塩とれ 宋の唐裏云宮御寂の霊仏の臣なり 海の国はよ
ちらふものの行人来の利とある唐の頭云にて宮にあらゆる塩と
紀三井寺村にあり 一村の生土神 祭礼九月十三日此村へいるなり
生涯の内を掛つれ まるまる内を参ると成たちまち気を失ふといふ

若宮八幡宮
牛頭天皇社

紀三井山護國院金剛宝寺　名澤山の半腹にあり　古義真言宗

本尊十一面観世音　開山弘法上人一刀三礼の作　宝亀年中の事ども

秘龕千手観世音　西国巡拝第二番の札所なり

開山堂　本尊の上にあり　弘法大師の木像なり　二三里塔　兎山尊の勅願にあり　五重の塔なり　一尺五寸作なり

上人自作の木像なり

鎮守祠　白山妙理権現　熊野三所権現　二十番王子社

経塚　日本にあり　上人大願発起の経文なり　若干の百巻なり

札納堂　本尊のうしろあり　西国三十三所　観音堂　本尊の梵像なり　ようなる

大師堂　弘法大師の御尊像　四国八十八ヶ所と称して弘法八十四歩ふ

常行念仏堂　八幡の宮口にあり　駒ヶ嶽の作なり

三瀑泉　南と杉柳水　本尊より下南三町余にあり　杉柳の下より湧出

中と紀伊水　本尊の西にあり　相撲の下より湧出

小と吉祥水　本尊の北三町にあり　大士の作元吉祥安の管なり

杉柳水瀑布　城冒山人

階前懸溜遠香臺　瀉自崑崙山下來百丈冊崖

鬼工手　仙家十二小遊苑

二王門　両眼金剛力士　大仏師　法印　宝永の作なり

禁殺生碑石　二王の下にあり　本多侯の書なり

明見社

貝吹山

春日社

摂待所

紀三井寺

鳴滝

杉侍の栗

萩

春殺去留

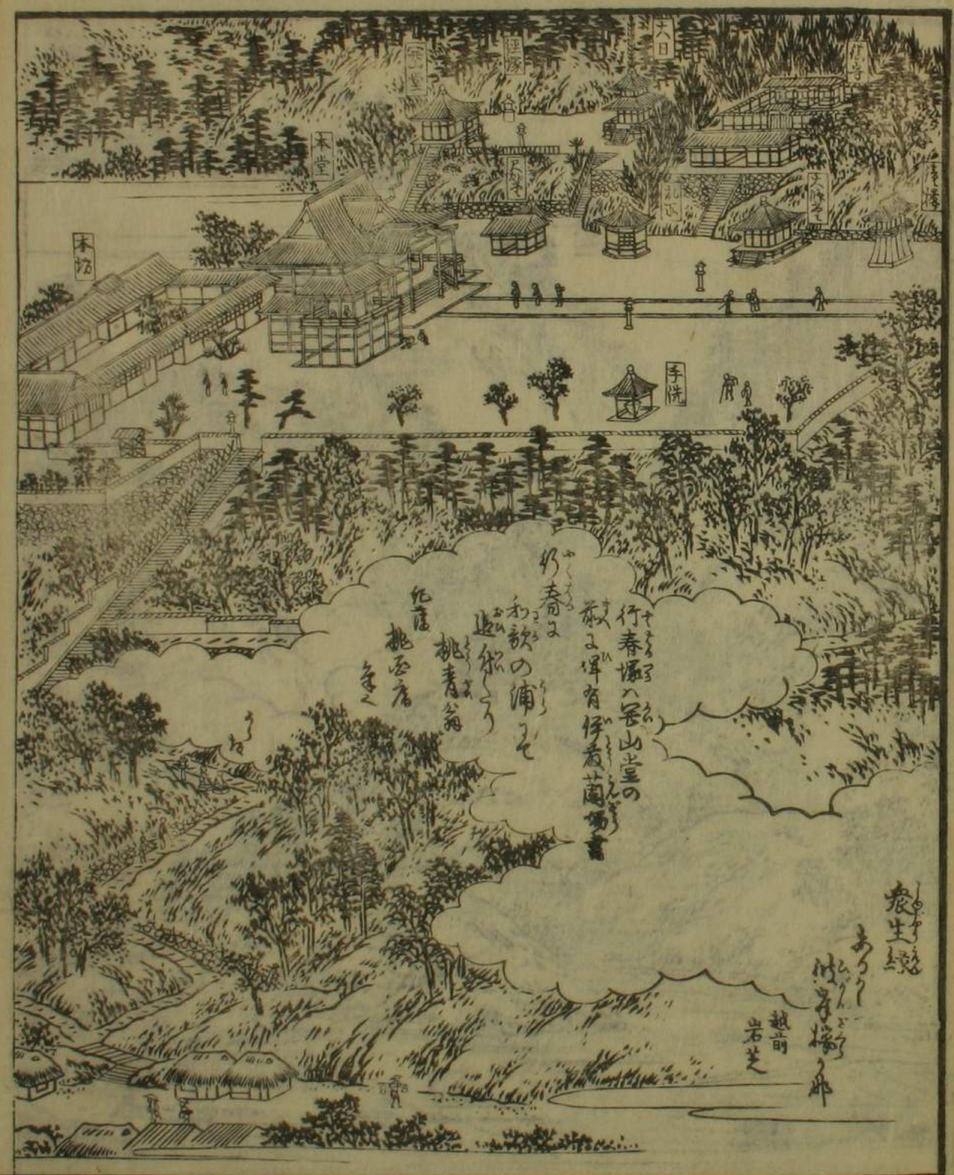
貝吹山

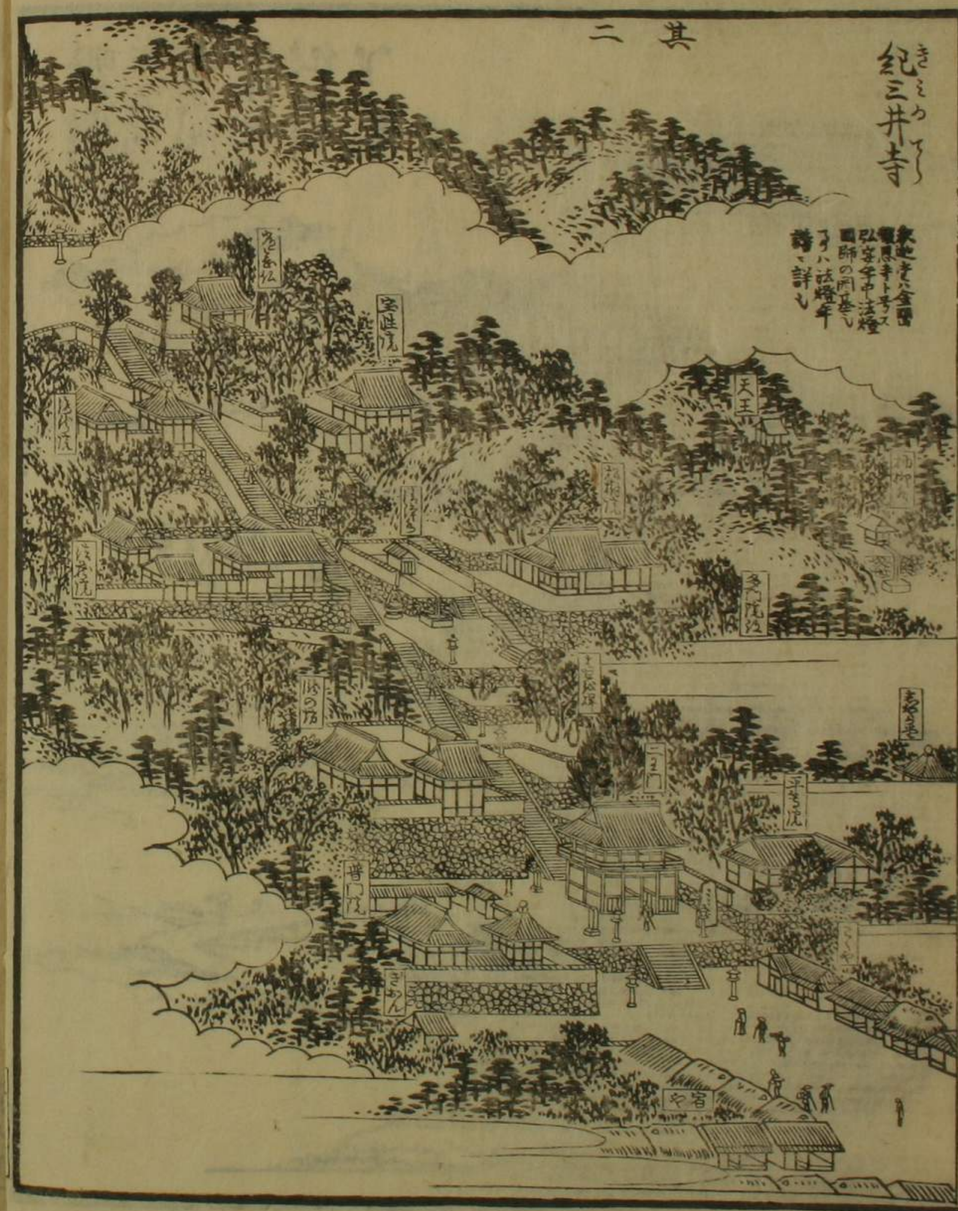
天満宮社

日前宮

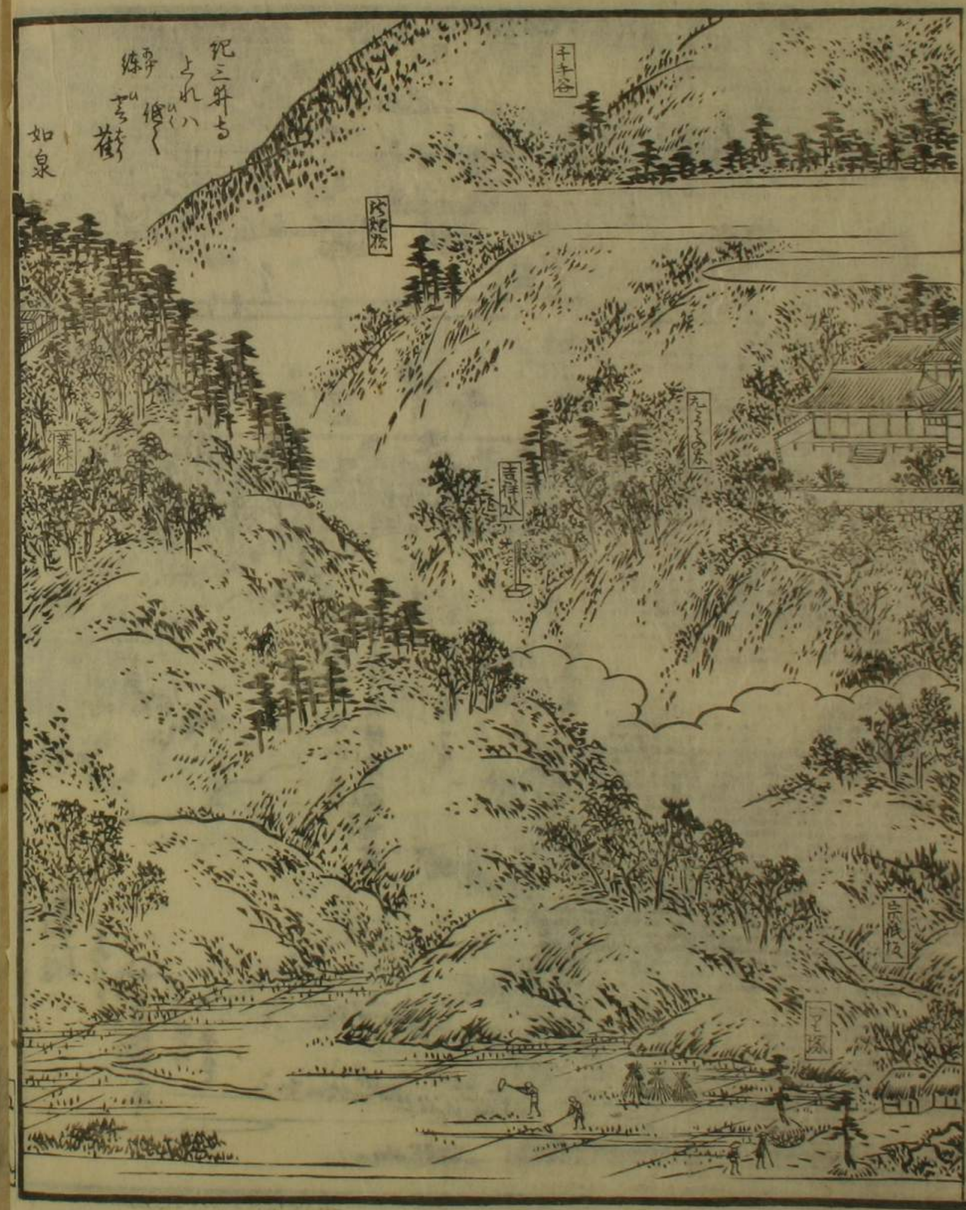
愛宕宮

天神


本堂
本坊
手洗
行春堰ハ長山堂の
殺ス洋有伊蒙蘭物書
越前
岩芝


其二
紀三井寺
宝性院
多宝塔
平等院
鐘楼
宿々

一冊
明見社
塩釜


如泉

應同樹　本坊の境内にあり　[illegible]

山有二菓樹一名應同樹傳是自二新宮一得来毎歳七月海又
獻聖燈一寅年本堂發願結二衆縁一余亦得拜云

家集　[illegible]

本坊護国院　内陣　本尊　等身山果報院建立の家あり　再興あり
妻院より眺望わかのうら一眼に

塔

海龍院　本尊十一面観世音　[illegible]

大師堂　[illegible]

宝藏院　[illegible]

大師堂　[illegible]

庵の坊　[illegible]

大師堂　[illegible]

普門院　本尊十一面観世音　[illegible]

大師堂　[illegible]

宝性院　[illegible]

大師堂　[illegible]

松樹院　本尊十一面観世音　服檀　大神宮　[illegible]

大師堂　[illegible]

多聞院　[illegible]

大師堂　[illegible]

平等院　本尊十一面観世音　[illegible]

大師堂　[illegible]

穀屋坊　[illegible]

大師堂　[illegible]

[illegible]

千手谷

敕願寺五町ばかり

龍燈の堂　千手谷の中

夫當山は唐の代宗の[illegible]ふおほうこくの法東衛の[illegible]
[illegible]寺なる為光上人の開基たりしより上人の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]
光仁天皇の御宇賓亀元年海より船にて[illegible]卯の時[illegible]普く
霊地とさだめ給ひ[illegible]大巨剣を[illegible]
[illegible]跡とし[illegible]世の凡俗[illegible]
國々を經歴し[illegible]
[illegible]

[illegible]西南に流れ弘誓の[illegible]と示し朝より渚る長夜の迷
[illegible]と[illegible]嵐浮世の置露をそそ[illegible]
[illegible]の妙區ちまたの地に[illegible]
其夜より[illegible]の異[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
上人あまりの[illegible]
[illegible]頂に合掌し南無[illegible]
の力をもつて普門示現の德をかぶり[illegible]
の切代遠ざかりたまへる[illegible]
まの[illegible]堂を結んで安置[illegible]
異[illegible]の霊像を[illegible]

佐馬樓君浦
晩景

[illegible]

つゞく

開会と許さんいうへつゝ威徳成法乃ちまあつゝく乃月ち
十一面ゝそう像を一カ三代に彫新ゝこれ成りく孝そ乃ゝ彼
霊像い固く秘てゝく開こそ乃ゝそ乃人見志ゝ者ゝ
上人ゆゝよう聖そ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ孝そ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

の法世尊を相ひ[illegible]こと[illegible]わく将生すべく上天の果を結ぶ
こゝの功徳を尊ぶ[illegible]んこゝにこゝを報恩のため例祭七月九日
後こゝに此海上を浄燈[illegible]然し彩上人の志を世を羅
[illegible]

[illegible]
海上[illegible]の[illegible]の[illegible]の

竜泉あうかとよう八德と具足して寒暑に増減あること
なしさきのく三蜜灌頂の涌仏ときて慈悲の霊水
翠ちんこん長生の三丹くらい号ゆいえん江名より名あることとして
紀の字とくらくこと山水口ろ而已

（俊徳の丸の三みまい地獄大がの皇子の殿今に くそ 恋の井水 清泉 井くらまつ〜たつ 国城寺 建立あるく 灌頂の涌仏 めちるさ山わこの井によつく
浮井くくたつ山くこの井ハのくふの三泉とう〜やてあ〜くもるる 三井の彼岸 嗚呼 中ゆ山乃
うるひうこ〜 修世あるいゆふの三泉とう〜やてあ〜くもるる

勝景こるなふ〜杉なる神山いま螺と屬く和辛吹上の浦よ
對〜なゆの樓閣翠微とゆきんぐ丹青彼閣よ俯ろ紙と
ちなこう彼人の如衣雲樹に映発〜〜〜天台の霞英ろこ類
漁夫が孤棹煙波ふ生涯して五湖の月あたこうるに似ら
つくいたつる人誰ら世英の標とつぐざ〜んや

遊紀三井山　　徳南海

天下三十三福地此山亦是古霊場。洛京和梵蓮一

洋閣。林樹起河花雨秀。昌図一燈傳至欲翠屏三
井讓清涼威神巍々金剛窟。幸嚴光明秘密藏。

神陀落山在昌國縣海中其八景中有洛伽燈火蓮洋古渡。天台翠屏山
有三井山有薬拂傳是自龍宮來往歳本堂啓龍給飛縁

同　　上野義則

朝試謝公屐給園日未斜秋風吹佛會龍晴霭遶漢家
窗外芭蕉樹帆前芦荻花山僧偏愛客海色上袈裟

雨中泛舟望紀三井寺　　然阿老人

駐棹自従容。依沙起伯鷹霧晴悲閣出。雨歛在家
重渇酌杯中物。饗食閑飯後撞徒看三井地。泥濘怨雖蹤。

紹述先生文集云。山上有寺曰紀三井。扆山面海。登道五層。歴二百餘級。峻如辟立
上有堂塔僧坊。此向接和歌濱海之地多有岡田堆沙作堤累石者。鑿及暮和微雨而歸矣

りえおくはいさんてまちつくれ三丹山　くにはる
明るくやしくはるの沖の帆を白し　掛るさん
いそうや沖のしくるのまわるる帆　を来

浦のなを紀三井ちよりきこえけり　尺童

景はくるへ隔れ云や紀三井てら　西播出合　由良雄

宗祇坂

当山の表坂なり

紀三井山下東の方にゆきて宗祇の古事ねあるところなり

宗祇にもめぐり逢なりしぐさへ

名草山

紀三井山の惣名なり　靈地なり

万葉

名草山事西在来吾戀千重一重名草目名國　無名

風雅

名くさ山とふやちくさのつゆにちれ袖さへほさぬ名のみなりけり　紀俊文

夫木

もろ雲のちへの衣手立別れや名草の山ともかるらん　前大納言

同

あふことはなくさの山のわすれかさむひとよするうきものから　長覺法師

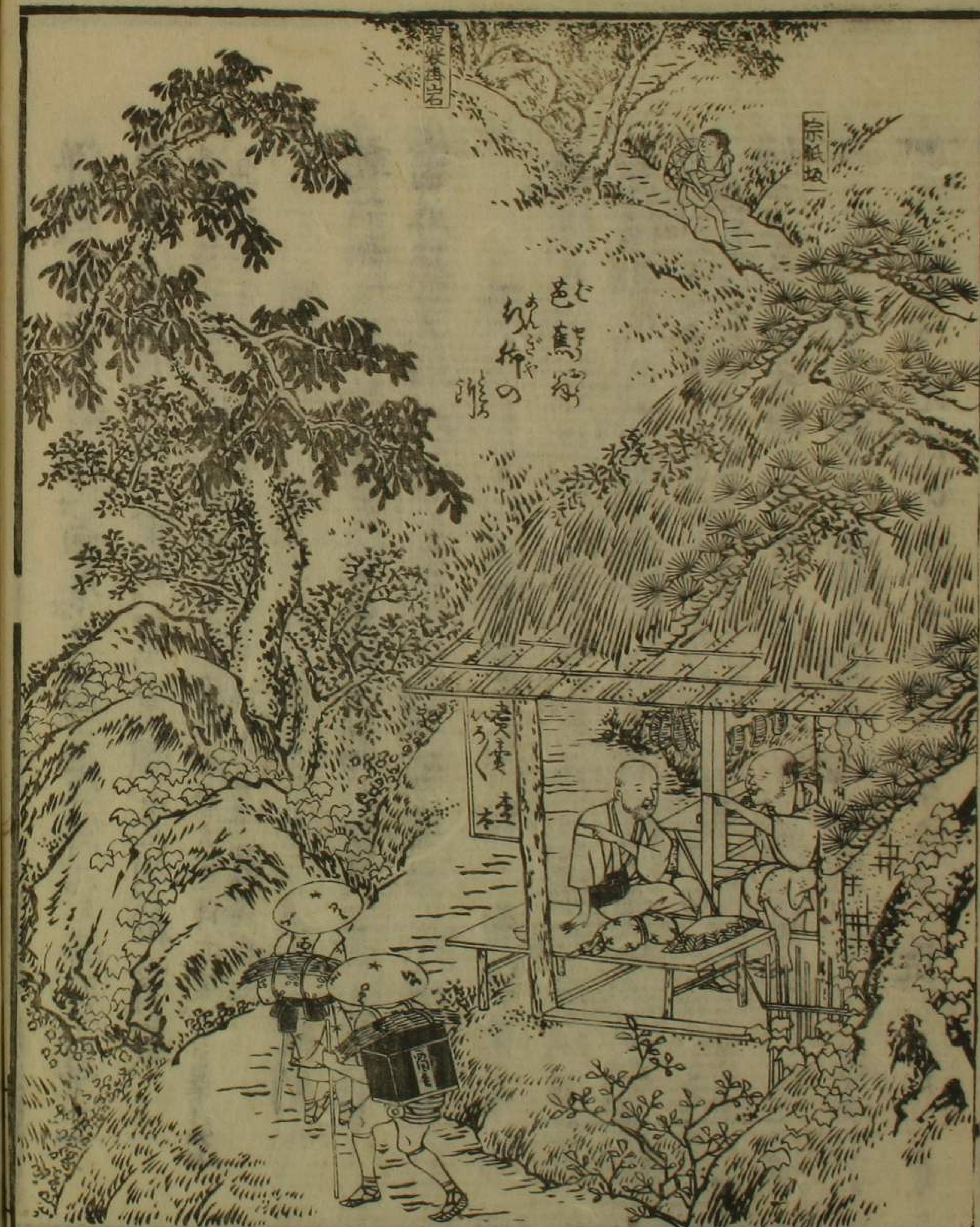
名草の濱

布引村より毛見の浦までをいふ　濱は名草の濱をいふなりとそ

なんの願ありもしらぬ棚と　三保

後撰

なにぬかりなくさの濱ちどりつまとはぬ夜そきなかりけり　よみ人しらず



後撰　紀國の名さの浦を君ゐやこのつゐひを風つる　よみ人しらず

新古今　蜑のうろみるめを波まくらかたくなさの浦とあひつしめる　俊成

玉葉　なにはうら今は名さの浦千なるこゑ人へき波さふちゝ　式子内親王

優千　浦ちとり夕汐こちて空よりくもる　内大臣

新千　あくまも今はなくさの浦風に物波さらく袖なをせんや　右衛門督教定

夫木　色をさふきみは名所の浦衛古巣にとゝ残すろとこと　よみ人しらず

紀のくまのの日しをる

月　くまくやくくのよの日とをさ〜名所の浦ふ　正

月　そくくになくさの浦のなくさめ波のよるまもあしをそく　兼呂

百所　なくさ衛なくさの浦風に空きえまるなるあけの月　定家

千首　わかつのをくくなくさの浦衛あくをそく美の浦ふ　有家

文本　里ゐう人蛇のゆくさも波さくえなくとあくさの浦の白雪　雅經

月　紀の國のなくさ浦浦よ貝ひろ人蛇のめをの言なるうせ　よみ人しらず

家集　ゆ〜にもあ〜ねなくさの浦衛波さうゐせうくさん　法浦法師

後所　なくさうのゐなくさ浦ちうう四代まてあくをのこ〜ゐる　祝の法師

家集　ねうくくろ名くさのくる衛波のまくゐたるくく世きく　菅原光祐

雪玉　とく世のゐさも志ゐ我心なくさの浦よすゆる波のつゐ　内大臣実隆

所根　ワくゐ人老も名くさの浦波ひを袖ようる花のゝ浪　正殿

千首　ようくさもなくさの浦よおさして家もうなあくりをみと　耕雲

ろわねうまろうの浦衛波のうくくちゐ花よ

なくて伊勢の衛氏のうちくくゐくゐ

なくうわ〜ゐ人のゐまゐみさくくときゐん波を袖

ゐめゐしくくえりゐちゐくくえてくくゐくくゐ波ゐくさ

て田にきくゐゐくくゐ

くくとゐくゐなくようくるゐくくゐ

名草の浦　日ゐの浦とゐ人

紫禁　ゐくゐくのゐひや名草の浦ゐくくるゐをとゐの袖ゐのく　順徳院御製

布曳の滝

布引村にあり

羅山詩集曰　紀州三井寺。寺中置大慈像。世傳昔有僧。常信観音住此處。且

布袋八生
布子西瓜畑
西瓜畑
東武
陸羽
其角

西瓜今見生南陵
剝破含玉露濃
僧
義堂

龍神來請僧乃俱入氷府及其皈神授一貝一錫杖其後有一梵鐘出海畔人惟之欲取之鐘不動於是僧出見之撫摩則鐘動而鳴其聲清亮繫布於松連之於鐘追以奉之所謂布引松是其緣也既而鐘甚輕而出遂置於寺樓爾來七月九日夜見龍灯于松下云補陀岸下有神僧夜海鯨音出應白布緯松如素布龍絹千尺是龍燈云云

うちなびく玉津島よりなびきこそ布曳の松　秀吉公

松遠く春めいたりしひろ那　京　二千風

布引村より出る上品西瓜は寛永年中流傳より薩州へ移る其安のはじめ肥前の長崎へ移る寛永年中

名物西瓜

西瓜

祇南海

流中碩莫若暑日功誰加虹霓彩隨刃氷霜涼沁牙

孚傳黑齒國皮稱綠沉瓜吾體雖堪轉赤心豈可差

西瓜吟　あくい　安達　ちんや　よみくしん

西瓜の卵　去来

そけ根ゑ　抱　佐く　西瓜の卵

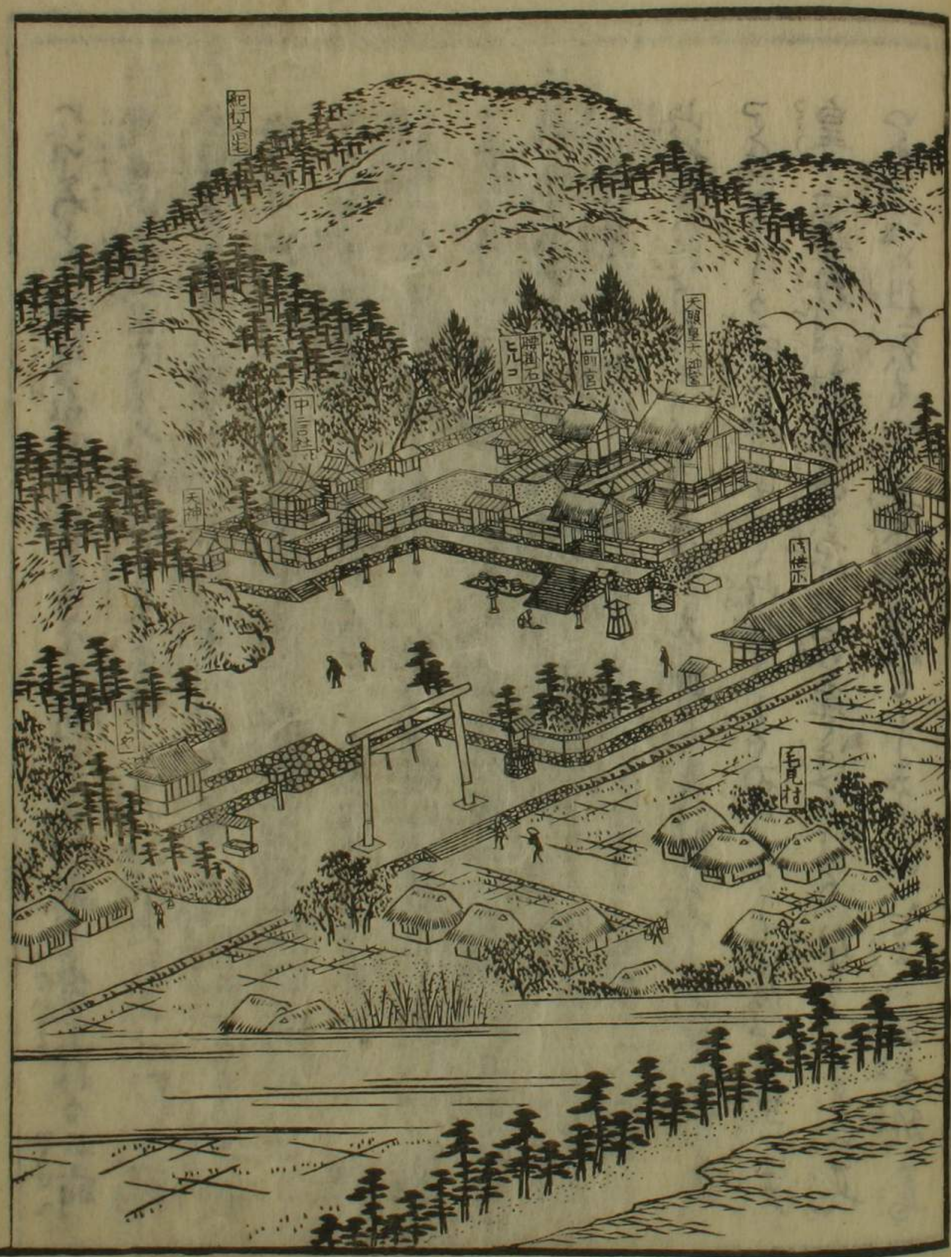
濱の宮

毛ぬ村あり海村の生土地を毛ぬと云る也　浦　亀の　ゑ　てより　ゑ　ゑ　ゑ

名所濱の宮
琴の浦

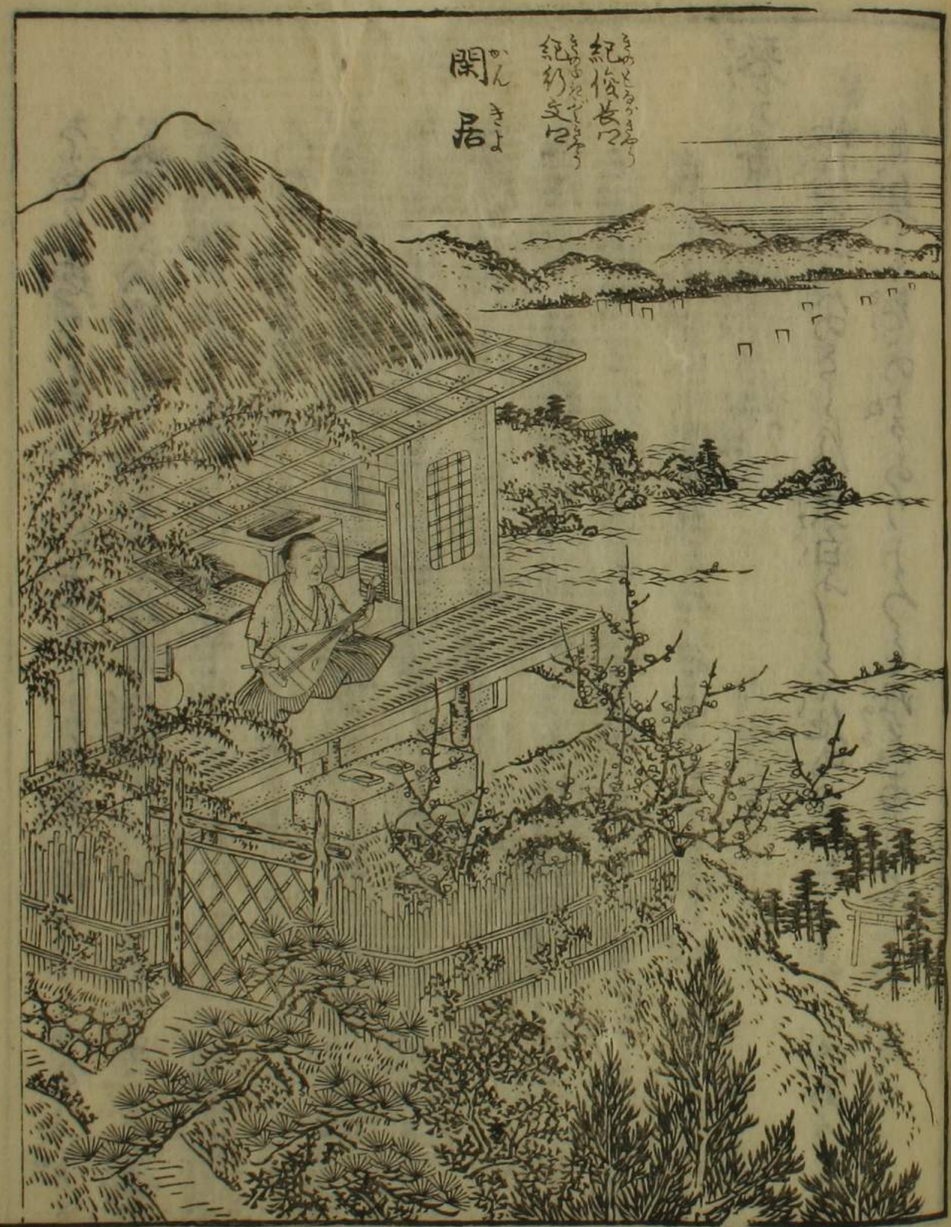
琴浦秋鴻
八月九月蘆
花舞三點五
點鳥千巻疎
雨夕陽秋影
澹相喚相呼
不迷處好粉
山水誠商量
魚意水田逐
稲深飛来故
宿琴浦月碧
水明沙夢瀟
湘

祇園海



にてつくり國造家の行勝とかたりぬまと一般に奉ゐる日前
國懸の大神いそのかみ武天皇東征しるしとなりたにあつかく二種
の神寶もたしかにつたへとかの御靈代の御鏡 日前宮の御神体 一名を御夫代
の日矛 御神体 とかまつりく共に天照大神の前御靈代くまし
まにを天造根命より今日にくれつしめたまふるたれかつく天造
根命二種の神寶と奉りて初め國かた浦より出の本と經
く琴浦ちる岩が根にこれ祈れるうたの号別日前國懸
の両大神ちる 甲岬より沖中へ三丁あまりも出る岩なり 此ようる
玉傳豊鋤入姫命御夫と奉りくこれにうちまつれ杉のく
山地おい近うなまつりる天照大神 古俗の名方の濱宮ふる
つ海きしが両大神いもとぐまりまくに後より無仁天
皇十六年秋月村の今のこの代の宮を遷り後うなまつりまい其へ
いつくしい社頭もいと厳重にれくまつりけると天宮の名残ふる

有とかたりぬ大御神のとぐめ多くて沒ま
あれば歳の本立のえぐとまつへ物の歳の石むちるまて祈りろ
おりくちいとゆうちるふ芳沒さぐさろ宮居の蔭ひもようる侍れ
のうつくとたのだくさうくもむしこんをそぐろよ感性と侍ぬ
狂歌
いろはにほへとちりぬるを多の蓋も其にくひるの神のたん 行風
紙満山善福寺 日村にあり 西国正寺末 真言大妙の御仏なり
観音堂 十一面観世音菩薩二尺 仏法正寺末 西国三十三所 統家 脇絵の第十八番 本尊
當寺の開基奉ふ久遠にしく詳なりて大永天文年間の古帖き
宝物記録おい天正の乱ふ灰焼くなりしそ
御鎮座嶋 日本のこの岬冬浦の沖中にあり 沖中にあるこの巌石にしく
沖崎観音堂 日本山の尾さん 夫神のこのりまもしもるへ
紀行文退隠舊趾 宮崎の頂上
紀文俊長の子にしく世くの職をたそ才六十代の国造



ちり

圓造家代々其人まことかたくなくも終
日諸宮の奈下たるも圓造家代々其人まことかたくなくも終
中俊長八博学にして和哥と吾妻ろ法小生と帝詔して今のうち
を召る人の其撰たるもの百餘首数新編の恐戸にして市安
に侍り家用日々に俊長栄利と心
ちなびかるる者道のおもひ深し終に應永十二年初志成遂く
退隠し其居ところ梅数百株竹数千茎とう色く其行ふ
標し書軸高巻を移く其中に讀往く風徒琴倡氏引く
然とすりよく優游しく其身を終く深ずるところの秀逸
おのく新後拾遺新續古今玉の集の歌文風に文
の志氏絶さ四風を吾りもとに其徴と繁人
て位俊に位つる賞くに永享年中再撰り侯しく次に章と織
帝ときに賓劍二口とたまつくこれを襲ふ其しく
り人に其家風と隊さること感じ世に盛ひと

たちもうせりとつくづも紀文のくよう貴寵とうつゆばつく
文のあとを追ふく世栄と辞し此地の閑雅と耳じて性を焼
霞と放まゝゆゝとく詩花のたゆゝなぐさう尚は名庭の
人々のうまれ性こと吟詠ゆつく是が性をよせざるいたつ
中にも東沼禅師が贈序ふ曰梅亭竹園此琴浦暮煙こ上
而中に有讀書絃誦聲者定其公之廬乎予草鞋竹杖逍
次問之こゝろつくうこれてき其人の風流ゆいやふこまち
詠歌なく新續古今に採撰せり 従三位行文
芙浦の芦ふたけてやうたおんひもなを間のもつるかも
愛さむる夜半の時ゆ人を
琴の浦 もつてふとうの舟屋
世捨の分入のこゝろ仏世の白ふく他のうちなしまつ紙あるくに
自然くたのまねあうよつくこゝあうく同

後拾遺

新勅

ふかくそ思ふるゆ浪ふこうまたはあのうつ火
なつかもとうぬはくとたとこゝやこ浦船の浪のたうた
主浪のかけくもこゝなきやちうたのこみうめうしこ
ようこかとれもとゆの中ちゆや芦浦ふのまのしれ風
あるこのたく廬の煙ちうくもこ浦風をいづたのまん
我こゝ浪こうし去ちうまうこなうこきこゆう
いうるかあ此のうふく網の芦浦にのんひくうん
春風こ浪のこゝ多芦の浦ものあてこゝうちう
紀伊国へくでかゝ付日前宮図造左京兆おくれう
ちのこうやなとう春のこゝ文あなうこのうこうこ
海まこむ里のこゝへこゝうこ浦のなふたれこひくうん
あうこん廬しかうこもこてこを芦浦人のみあうこめ

道命法師
法印幸清
侍従隆教
衣笠内大臣
前大納言為氏
正二位隆教
前大納言經繩
仲正
飛鳥井雅永
家隆
文負公

琴浦松緑　俗所謂布挽松昔有神僧自龍宮獲鐘處其繫組松是也　祇南海

繫組千古緑　象雲浦得松風琴自聞波底華

鯨何處吼　無人試問洞庭君

春ゝ歩や消し岩ゝ浪ゝ　槐亭老人

明見社　内原村西ゝ西ゝ山の麓ゝあり　春日神社　[旧正拾侍郎の南の岳にあり土人云ふ原の[illegible]]

船庭　[村の生土神[illegible]九月廿三日　中ゝ[illegible]三平朝臣の力祈職補任際目の古記あり力祈ゝ[illegible]]

補任　船庭卿力祈職事

右以藤原為宗令補任彼職之上者寺門下知如件

門名事ホし世相違ゝ令勤仕ゝ状如件

建武五年七月十四日　預所判

天照大神　名草彦神

春日明神　名草姫神　座[村の東ゝあり村の生土神名草姫九月廿三日]　神楽舎[三十六歌仙の後ゝ[illegible]紀[illegible]造像名匠のふぐわう]

箕鳥　[illegible]　内濱[[illegible]年中[illegible]]

中言神社　[黒江村にあり通称の生土神[illegible]]　紀神名草比古名草比女神

末社　[伝[illegible]]　拝殿　神楽舎　[光[illegible]]

黒江御堂　[村にあり[illegible]]　西本願寺流　本尊阿弥陀佛

当御堂ゝ山四年本願寺御相兼家九世宗如上人当国ゝ

経歴あゝ色ゝ山ゝ[illegible]ゝ御坊ゝ[illegible]ゝ御建立の霊

場ゝ[illegible]第十世證如上人天文元年六月治左山科松林

山の御堂ゝ退去あゝ石山の御堂ゝ[illegible]下向ゝ[illegible]

ゝ天下静ゝ[illegible]ゝ浪華ゝ[illegible]

ゝ当御堂ゝ[illegible]居ゝ[illegible]

ゝ[illegible]ゝ文ゝ年間蓮如上人ゝ[illegible]ゝ真宗の安

心ゝ[illegible]意ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ直入の法

門ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

の門徒ゝ他力本願ゝ[illegible]ゝ法性常楽のゝ[illegible]ゝ尊信ゝ

東
獅々岩
大岩出ル
山王心
山神森
五十
七間
市峯
東城山
南
西
大野日方全圖

黒牛潟
中言社
黒江御坊

佛恩と報ぜんもうし稲麻のごし

実如上人ゆ手植の藤　寺内の門ろうとうたあり枝垂藤して他にあるろ寺物ちうて

おちこうゑねちこうくわちうたうてる捻ぬちろう邪　毎　淮

面山の桃泉い用辺実如上人のぼくぼくろうろうの羅漢の霊ぼくぼくに二十五菩薩の霊ぼくぼくに地一堆の岳ぼくぼくに地獄の扶助ぼくぼくの

黒牛潟　山黒江のいこ辺ないとちぼく紅ろうろうのころうろうみるぐひ〜〜〜せ里人の多さ集〜〜〜

黒江塗器挽

堵屋
黒江塗
桃李園
栗問戸
中尼
大日孔

観音堂

日吉宮八幡宮

辨天山正定聚院永正寺

立像にして長三尺三寸 開山堂 名号石

作はるひしてしれ 徳治上人 鎮守弁財天社

當山は原古刹にして開創いたきものにたりるや深く洋々

たる荒廃既に手ゆるく唯一宇の艸堂とのこる其遺

跡とて村老これを哀ふ中比上蓮社

自正景誉上人 俗姓 氏 光師月卿法表ち超蓮社

上巻上人の遺跡と絶たるの後法燈のいとゝ然せこ

山よまうくむらんそれ地とそたるひしに村中一箇の

信士が橋爪氏なるもの上人に待つく茅舎ふ屈致し鎮

西の一流の法味にうるあふ聽聞ひしが深く信んのれも

名号碑 開山堂の南にあり 六字名號碑

本尊阿弥陀佛 俗名良秋 のさく

ひに凝しく頻よ孔通のこゝに沈じたるとせすあらち 許多の田園を

寄捨し一區の梵宮に生平上人に仏ゆのしせらと人

法のつゝめに任くし山地よ錫に註浸教と為絶しなまひとりに遠

ちに徧素性とひいろ法雨の潤いとるものあ〜ひとりに終よ

上人に中興の祖くし紀元徳三年丙歳十月十後ろ

勅約に寄こゝ遠忌法會の式今に月月十五日往昔い

くれどやらちろ

神門町

山門より人皇百五代後柏原院の勅願寺にあり紀元二世まくい

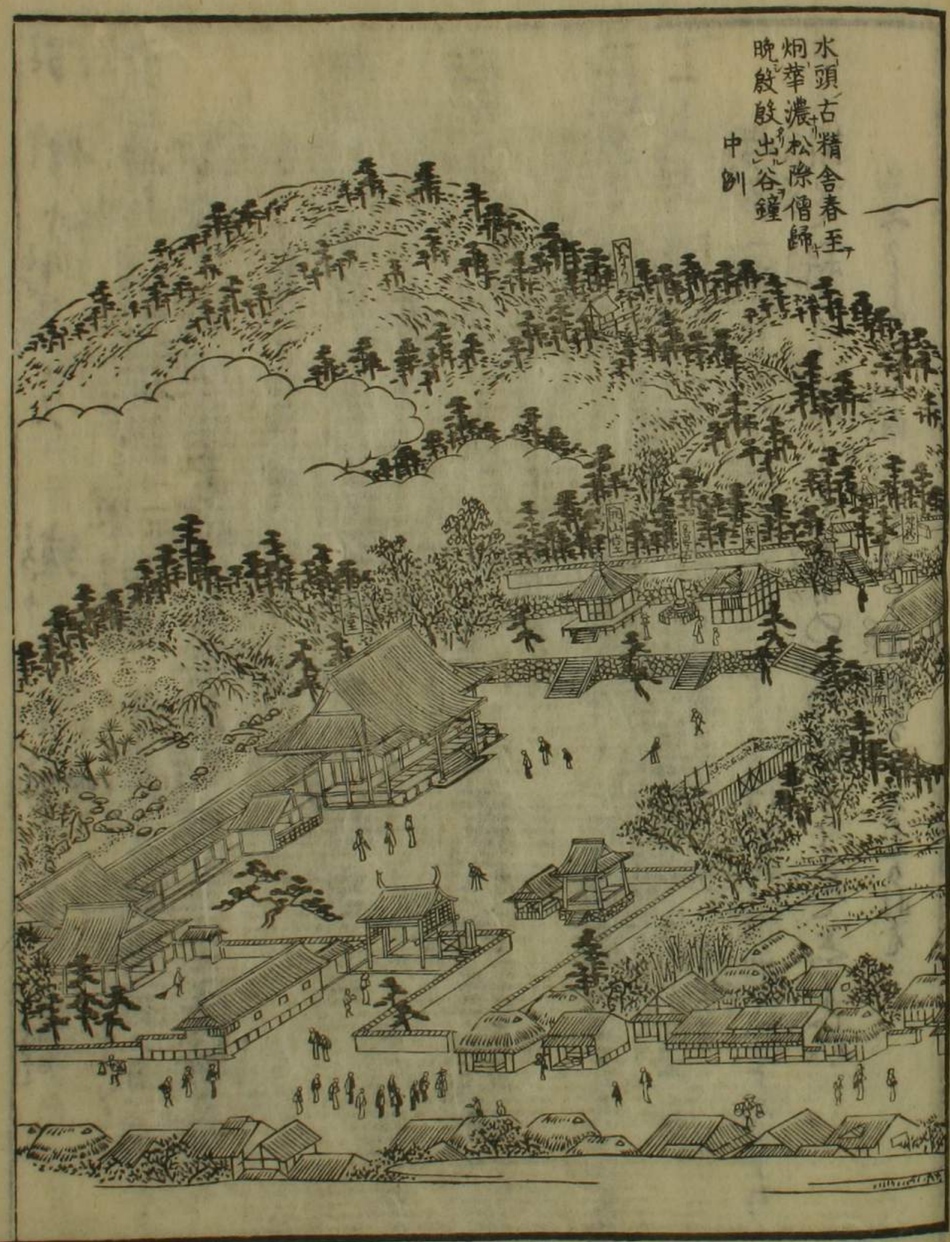
妙見宮里神社 生土神にして例年九月十一日 犯神樣田比古

本社 八王子社 妙見社 神宮寺 古義 今畢尾大樹況

天竺牡山阿弥陀寺 寺尊阿弥陀佛 俗名良秋 のさく

服士波切不動明王 弘法大師の

大師堂


水頭古精舍春至
炯華濃松際僧歸
晩殷殷出谷鐘
中剛

高里神社
永正寺

河村　今井田村　城臥

栗田神社　井田村の丸山にあり（村の生土神）九月十日　紀神　栗田朝臣祖彦國葺命

岡社　人王　春日下の社　姫大明神　まさい菩提房王

子　そうはるびこ　そうはるびこ

春日山慈道院　同所にあり言ふ古義　本尊　地藏尊

大師堂　慈道大沙弥の作像　伴ちゝ　寺の内

大阪坂　まと小丸坂　同村より山へ峠　ようつ山

松代王子　春日山の西のうりくれの石あり　神幸紀に云　坂王子次に泰松代王子有音

三上山　女体　春日山　文明旧記に小松　寺の内　俗平多裏　紀に三位中将俱多三上　法絶　とたてまつりたる人下畧

此の登　此の登　法絶　とたてまつりたる人下畧

凡河内斜ちつゝ　春の日の傾くを　みゝ　南の方　月隈

浪さく南の海の安さくこと上のひふとあるはたりけ

春日神社　三上の山にあり大阪の　生土神にて例祭九月十日　紀神國忍人命　本國神名帳云　正一位春日神　別宮　春日大神　神

本地堂　本尊釋迦佛　座像にて　作ちゝ

大師堂　慈道大沙弥の作像　作ちゝ　寺の内

柿當社の沐浴の年暦久さとゝ　其監觴さゝうたりけ中

古大阪城　昔の火の餘　煙あれ羅門く　流無〻　社

社檀をいくちゝうたりけ　ちゝ　鄙老集會〻うたりけ

たゝまつる五十首の者守護〻

元弘二年の春大塔宮護良親王南都般若寺　然阪峠

栗田神社
松代王子
こ上山
春日神社
前中納言
匡房
春日社
城跡
栗田社
吐竜

こせたまふとて此所にてもまた御社参あり日も夕陽に
なりぬれば早くも勝川の薬師へ御参籠ありて通夜し
玉ふは落人の御身にはまことにみこゝろ細さ只直宿のよを明させ玉ふ
にも此嶋にて郷士あまたかはる〴〵おまもり申しは別に十人の郷士相詰
守護し奉るとの由を上にも御感のあまり受領を賜る

増鏡に曰
まことや此卯月の比よりかしこに名のられし正成とぞいふ
なる大塔宮に数々又楠の正成をもて御かた心にて世の
ひとへんにたのもしくおほしめしけれ正成は金剛山千早やと
いふ所にいかめしき城をこしらへてこえもしたかひたるものどもかれ
おくになりぬるをさき大塔の宮の令旨にて国々の兵共
をもひにけまほし世をもうらみあるものどもこれにくはゝるへは
かたらひ東よりはじめひたち宮の御供にもまいりけるも
大かたそれを見とほすに吉野にもよしなくおもひしかよひ

はくさうめぐらくまたまたの
神あうまをかきあらひてたかさ
にべくそはさくくさいきこゆるあらくまたまくつま
山等この十巻の郷士もうふ佛方とそつくくゑ
城趾　西はしりの小そ町　舎人あうちんいくくん天正年中小畠具教卿五箇乃
関上ようくくん　助坂内民部左羽左衛門　稲生雑樂の助岸
江大炊　この春日山城と鄭氏屋　ちうるひく石保土井
延命寺　百草社神宮寺　根大名持　言ふ左右　蜀
大師堂　弘法大師作　四国八十八ケ所とうれ　巡礼の第五十二ゆるれ　霊場
百草社　根代　村にあり　西郷の　手の　郷の　えんが　しらの
百草明神　生土神　にて　知れ　九尺十音　草姫
齒ぬ勅諚の年代詳ならず　草姫
年間二品親王任助再奥の株れ日百草大明神　二品任助親王　岩神室伝
十念山具足院弥陀寺　百草社の宮寺
本尊如意輪観世音　作つるびく
本尊十一面観世音　作はるびく

大師堂　仏法大師の像作し給ふ

車岩の瀑布　元泉翠岩の侍りて百丈宮より七八丁ばかり西にあり百草枝繁り

百艸と名にし涼しき瀧のうち　麥林

衣笠山　別所村のうしとらの方にあり

十二所権現社　別所村なり紀伊の生土神たり

衣笠山の瀧院願成寺　別所村なり天曜寺に屬す

千手千眼観世音　太土の作

然阿の所権現社　山王社　別所

鐘楼　本堂のうしろ

観音堂　本堂のうしろ

開山堂　本堂のうしろ

開山湛慶上人廟　中納言宗顕卿墓　本堂より南

湛慶上人の法眼のあるじの老松枯れて久しくなりぬ

飛泉　千手のちかくや法乃たふとく侍　坂中矢樹雲江

杵山の人皇七十二代近衛院御宇伯父安達君湛慶上人久寿二乙未年の開創なり侍堂門院の御願所なり別境内八所四面標石あり〻〻今堂誌堂食堂三重塔経蔵鐘楼中門山門惣外廿四坊の僧坊堂塔伽藍荒廢

きゝあり〻と星霜閑うさもうく遂に為仁の吾孔れかゝひ

ゆゑ山と手中与藪のねぶろふ堂とのこるに本尊の霊験日く

あゝなよ〻〻やさに詣人〻えび支れりんこんび千手観音

崖惜の四八端寿の長岩三千四百文の導師なり一見

一法著い必離三悪趣とみやふ二世の願ちなれ〻む勤

修精進〻〻大に四衆と利〻〻与像霊験霊の広利願

別所鎮成寺
長笠山
涼佛
毎天滝
大滝

鎮成寺
三王門
大滝

満願寺を願成寺と号す

僧湛慶　奉譲渡別所之山池壹處事

在紀伊国三上院二里野郷奥山中　宗三瀧別所

願成寺

四至　東限峯道　南限瀧上黒山後

西限衣笠山　北限自大谷界迄二十石田口

右件別所者。是湛慶之三上所座令開發起切開深山奥。
令建立堂宇招居住僧等以里肆町宛行各食物免除公
事并官物致帰依故件山中東西拾陸町南北拾陸町以
令寺領可令于至慈尊二会暁廻向者。抑黒山者。是伐以
為主野者又以開發為主事世常習也。就中件山之本主
者紀貞正相傳私領也。弗彼貞正行得之。員物臣多之故
以重野郷并件山等令弁済行得之。出撃伐早隨又全以
無日他主人。仍別所奉譲渡湛慶之舎第中納言君宗頭
者也以不可寺務執行之状如件故以解

日僧書卯

本願上人湛慶

久寿二年正月

西行撰集抄

三井上人の庵

三井上人の庵めぐりに出られけるに、谷の長めのそばに、法花経の
三昧の上人、ゆかりなりしにはるばる訪ひ入るに、ことさらに
まばらなる柴の戸のうちにはあれども、苔むしたる庭のたたずまひ
ゆゑ深くもてなしたる。ものの数寄のあらはれたるにあはれ
ちらく家と出でたる人とは、自らはいとあさましくぞ思ひ
なされける。

ちりぬるかとみるまでにあるかなきかの風の音にそなれぬる
ちりぬるかとみるまでにあるかなきかの風の音にそなれぬる
ちりぬるかとみるまでにあるかなきかの風の音にそなれぬる

ちりぬるかとみるまでにあるかなきかの風の音にそなれぬる
ちりぬるかとみるまでにあるかなきかの風の音にそなれぬる
ちりぬるかとみるまでにあるかなきかの風の音にそなれぬる

ちりぬるかとみるまでにあるかなきかの風の音にそなれぬる
ちりぬるかとみるまでにあるかなきかの風の音にそなれぬる
ちりぬるかとみるまでにあるかなきかの風の音にそなれぬる

瀑布

鏡岩

瀧川村より東れあり。こゝに牡牛の像のごとき岩あり。
牡牛の像のごとき岩あり。
日村ひゝ二丁ばかりあり。餌ばかり下畧
あさはかなる人の牛の像とぞ
ふくあゝしうみ

鏡岩
下居神社
雨の社
淳林寺
古寺や
苔の上なる
蝉の
鳴き
日影う那
巴人
左様人
中門
中之坊
大門坊
東城坊
小伏侍
若宮
下居宮
アラタ
おうの谷
中つ坊

幡川村と号けたること[illegible]二つにちなむ[illegible]
のうち辺にちなむ[illegible]村人いろひあけて[illegible]
切幡寺と[illegible]

幡川山淳林寺

幡川村にあり[illegible]

大阪堂

[illegible]

什寶　聖武皇帝御影　三千佛函像　開山[illegible]上人　[illegible]

支那山人皇四十九代聖武天皇の勅願所にして奥のまさぢち
[illegible]上人の開基にして天平五年春二月聖武上皇王舟不
[illegible]

存る藥師佛

[illegible]

[illegible]

中門趾

[illegible]

[illegible]

瑠璃光七佛切炎經に吉祥王如來宮月智嚴光音自在王如
來金色宮光妙行如來無有最勝吉祥如來法海雷音
如來法海息遊戲神通如來藥師瑠璃光如來[illegible]
[illegible]寺に七仏ありセし　内の一躰ちちとく　性者堂天舎中門
山門子院乃跡田畑の中に　古碑い刹落しく　[illegible]
[illegible]石に[illegible]くに[illegible]くち[illegible]　[illegible]
[illegible]猿の吟ぎ　[illegible]　今僅に卅堂[illegible]

下居神社

日村にあり　生土神例年十月七日

鬼ヶ城の大岩

日村にあり

雨の宮

[illegible]

苗取堂

雨の宮の傍頂にあり　千載[illegible]

子安山地福寺

日村にあり　[illegible]村淳林寺末

堂の跡

[illegible]

存る子安地藏尊

[illegible]

大師堂　弘法大師の像御ふり伴帝山なり四国八十八所と移す五十七番札所

新王山菩提寺　山田村にあり地蔵尊

大師堂　楠川猿田寺末　弘法大師の像作り

南陽山観定寺　曲良真国寺末　本尊十一面観世音　高二尺八寸

服檀達磨大師　歓喜堂　四国八十八ヶ所と移す五十九番札所

法雲山慈眼院釈迦寺　本尊聖観世音　高一尺三寸

大師堂　弘法大師の像作る　四国八十八ヶ所と移す六十一番札所

宝岡山蓮華寺　本尊延命地蔵尊　高一尺二寸

大師堂　弘法大師の像作る　四国八十八ヶ所と移す六十二番札所

三八幡神社　末社　八幡山伊成院神宮寺

大師堂　弘法大師の像作る　四国八十八ヶ所と移す六十三番札所

宇佐辺和泉寺　五大日宅跡

大野　注考大野城の麓の東の方国の府ろ

慶釈迦寺　中村の北にあり　本尊中尊釈迦の木像

大野城跡　日村の南にあり　西の城東西三四所へぐくあり東の方と本城と西の方い山勢に沿ひ東西の嶺連り其中に虹岩

城ヶ嶽あり　城ヶ嶽へ攀ろ十餘町あり天守の跡

いまく二丸の跡い巻石多し　嵩城と築し時代は及びうすび

建武の年間に沙弥覚心生城し延元のころ忠実

成左城と三平十九年より細川淡路守宗茂と頼して

代官所郷左衛門尉居る至慶年中より城主の代まで五名

修理左支義理居城ろ日苗氏清日満幸又迎し内堂合戦

よりて出ル族ちのくらう義理も逐電して牛家に日四年より

右内左京左丈義弘は後醍醐天皇の城代奉行平井豊後
こまゝ守る志うるふ永二年の秋大内助又逆義弘畠山
基國ゞ謀言ところえ泉州堺浦ゆく合戦し基國ゞ陣ふ
つゝ畠山滿家を討ちうこの勲功よりゆく紀伊国ゆ給人
のうた当城ゆ守護代杉伯耆守入道方ゆ天文年間又
河筑前守こゆゆまもる左内の助左内神保行来遊佐兵庫守
おこゆゆ守ゆ芝大閤秀吉ゆ当国討入のうた城ゆ

本朝通鑑曰

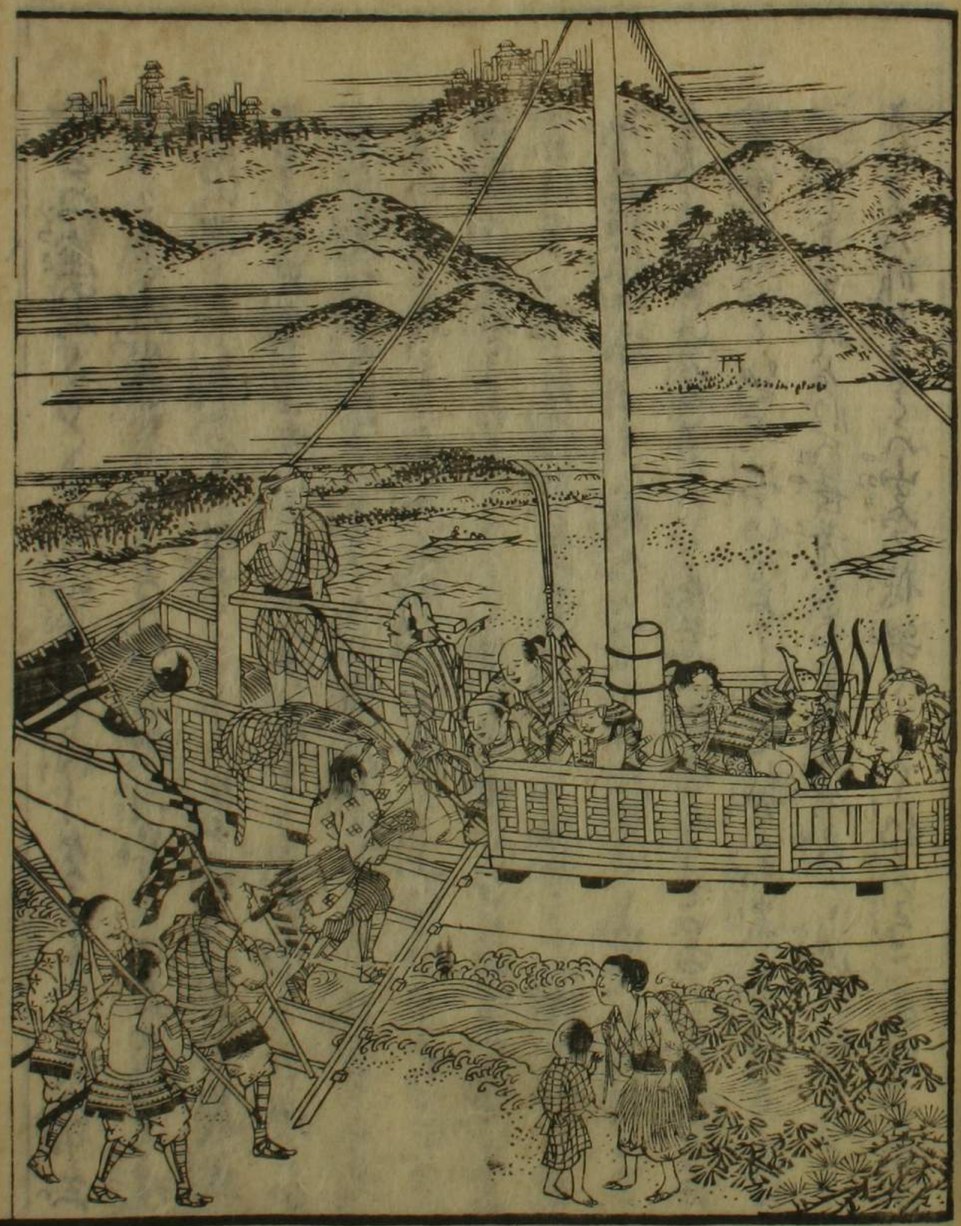
将軍義滿叙從二位康暦元年春正月南征使山名義理氏清
等陷紀州之數城菊地下武家西州悉從屬武風天下倍靡將
握通南朝者沿希故紀州之數城無無搖助資糧置之兵力日
尺義理用之與氏清等 義理、義之孫 入京進守之 上九之數壘悉被陷義理兼弊又拔數城南方所殘
之城僅赤坂千破劍 紀州牲川恩地之族守之、新宮之二城而已至是山名大

明德記

振兵勢南軍悉傾威力義滿以紀州賜義理賞戰功
ちゝ行ゆ中国ゆ安ゆ為ゆ今ゆ紀伊國ゆ
人おゆゆ松ゆ左ゆ国ゆ沖免ゆ
沖書ゆ法ゆ事ゆ思ゆ業ゆ左ゆ
ちゝ左下ゆ法ゆ沖免ゆ
月十三日都ゆ立ゆ和泉国ゆ地下ゆ義理退治ゆ
の兵船百餘艘ゆ合四ゆ法ゆ
和ゆ水ゆ王ゆ紀ゆ湊ゆ政入戦ゆ雄ゆ
船手ゆ左ゆ芝ゆ和泉ゆ堺ゆ
一千餘騎当国ゆ府ゆ陣ゆ
金剛寺草山駿河守ゆ美作勢ゆ
ゆの切所ゆ切塞ゆ雨山上ゆ楯籠
まゝ今度都ゆ合戦ゆ出ゆ
振ゆ兵勢ゆ南軍ゆ悉ゆ傾ゆ威ゆ力ゆ義ゆ満ゆ以ゆ紀ゆ州ゆ賜ゆ義ゆ理ゆ賞ゆ戦ゆ功ゆ
ちゝ行ゆ中ゆ国ゆ安ゆ為ゆ紀ゆ伊ゆ國ゆ
人ゆ松ゆ左ゆ国ゆ沖ゆ免ゆ
沖ゆ書ゆ法ゆ事ゆ思ゆ業ゆ左ゆ
ちゝ左ゆ下ゆ法ゆ沖ゆ免ゆ
月ゆ十ゆ三ゆ日ゆ都ゆ立ゆ和ゆ泉ゆ国ゆ地ゆ下ゆ義ゆ理ゆ退ゆ治ゆ
の兵ゆ船ゆ百ゆ餘ゆ艘ゆ合ゆ四ゆ法ゆ
和ゆ水ゆ王ゆ紀ゆ湊ゆ政ゆ入ゆ戦ゆ雄ゆ
船ゆ手ゆ芝ゆ和ゆ泉ゆ堺ゆ
一ゆ千ゆ餘ゆ騎ゆ当ゆ国ゆ府ゆ陣ゆ
金ゆ剛ゆ寺ゆ草ゆ山ゆ駿ゆ河ゆ守ゆ美ゆ作ゆ勢ゆ
ゆの切ゆ所ゆ切ゆ塞ゆ雨ゆ山ゆ上ゆ楯ゆ籠ゆ
まゝ今ゆ度ゆ都ゆ合ゆ戦ゆ出ゆ

幸の武勇たゞごとゆゑなりと義理のうへひしうしたがふ紀伊国も
故郷の合戦いおゝんと人々おもへり悪くれひしるところふ赤松上総助
義則はお播磨を国の分二十餘箇を三手にわかつ美作国
に攻入て国中物ちらすしろ雨ふ二九にてのりたる兵船勢
もんゆ多りて大内左京大夫の京をまもる方へ近次業内をそこ白昼に去
九と出て淀卒ふ上総助うへからうゝ山ふ分にかゝ
合戦とぐさかもあうりゝ山ふ茶山後河守も出九ふ落て淀
茂白へぞ先あつまりたるこゝろ紀伊国勢も遠く大内の
方へ陣を張て義弘の兵法大夫うへ義理の兵部大輔
く今ん百騎にもたゝまうをうくゝ甲斐くゝに来もある
まゝなれい故のゆちゝ女性わゝ人ゝ多男ひ
ゆひにたのゞゝ二月廿三日の暮行ふ軍の内談しゆうん
修理左夫のたるひゝろんはこのゝ山ふ上てもきろゞに要害にてもきろゞ

こゝ故と待こもちんだし小勢なりとも手ゝ先て和泉山峠に地
上ゝ故紀伊川をひかうん所ところ地集ゝ合戦して打ち松ふ
討死ともゝ名を万代ふ残ゝ山駿河守ゝ山ふ草
たる時ゝ方甲斐ゝ爰ゝ合戦のちゝ氏わんもなどにひろの上
海上の国人ゝ多ゝ故ゝ地下人等にてるまゝくも
押方幣ゝ多ゝ人ゝ討ゝ京都へ
のゞ恩賞の恵とへひらんゝ打ひらん先ゝ人ゝ
彼の堀溝に落ゝ人ゝ大地ゝ
無ゝの方へ押ゝ追て京都へ
ゝ人ゝ先ゝ若又ま
たゝ多ゝ人ゝ山人ゝ
ゝ人ゝ合ゝ今つゞ幸ふと達
ゝ氏ゝ矢の道ゝ



山名帥理太夫義理
大平城ゟ岡山日高
由良の内真国寺
居陣の所

なまへつ座のへくとくゝ岩山義にぞ用〳〵なるさへうゆ公用云
をべ〳〵くゝ水の東れ浦より紀を神〻岩〻二月廿五日の曉
干潟の浦より舟をこぎ出し申暮かく義理
さぐゝく思業をうゐくさゝい先陸へ上り内談かべ〳〵てゝか
由良の湊へおくりなまへ山伏の姿よりゝ紙屋〻方へ
わりいこべさ紙さゝさゝる浮の浦山伏仲〻上津山とうちこんて
南朝の方へやまのるべさゝ〻異人遍〻るりなるよ修理老夫
宮ゐいなるへ仏なん由良の寺へゝゝ〻多上人御多創り夫
地と結縁へ〻〻〻船へゝゐ公たるひく由良の真国らへて
泉へ〻〻ゐるすゐなるゝ長老と相着あるゐゐ変幻のうた
世の中に心がゝゝ〻ゝ〻ゝ〻

嶽の震とゝ〜松ぶり枯ものくれた
日數と重ねる山の海を名ゝ神風や伊勢の国へと出給へ 下畧

名古浦

南は海を名古浦爾依浪寄高島不相子故爾人丸

万葉

堂之名古浦之藻之名告藻之名告藻之名告

心山寺念寺　日浦にあり保元宗　本尊阿弥陀佛　安阿弥の作なり開基つねとも天武
[illegible]　本中若宮を祖世和尊を中興す
[illegible]
紀考也

殿極樂寺　ほうにあり[illegible]の紀神社　ほうにあり保元宗の生土神　例年九月十一日
舟津市杵神社　日浦にあり[illegible]柳の井戸　[illegible]居村の西にあり[illegible]居の玉みもと
[illegible]
[illegible]

一の鳥居旧跡　[illegible]居村の西にあり[illegible]居の玉みもと　後戸王子　日巫にあり[illegible]居の玉みもと　又九十九王子のその一ちり
[illegible]

仙臺山浄土寺　日村にあり　本尊阿弥陀佛　[illegible]
時宗　[illegible]
[illegible]郎　兄弟の碑石　岩修理亮義泛の碑石　日所のうへ
亀井六郎　[illegible]
[illegible]上人の開基なり大野城主山名修理亮
義理の菩提所なり[illegible]仙蓬院松岳永寿居士の本下氏
部[illegible]臣利[illegible]有縁あり又[illegible]本三郎亀井[illegible]海内
鬼神のごとくいしも天[illegible]の嵐[illegible]の声の老
[illegible]幽谷寂く凄[illegible]萬古の悲しき墳[illegible]業に埋[illegible]
[illegible]

魑魅に托し蒼苔層[illegible]も雄名は天地とともに
[illegible]
[illegible]物の日星とともにきらめく

亀井の泉　日村にあり[illegible]泉四時[illegible]
[illegible]

小中山誓願院紀宮寺　日村にあり[illegible]　本尊不動明王
[illegible]
[illegible]

大師堂　[illegible]

岌白墨　[illegible]

市霊の神社　日村の南にあり[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

家集
[illegible]

日
[illegible]

冷泉為重

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

茂自の系はく手[illegible]

終末三郎重家完

[illegible]

家傳に曰人皇の初神武天皇東征ちう[illegible]虚空見日本国[illegible]饒速日命稲穂と稜威を持て[illegible]

れ供し[illegible]天皇[illegible]賞美[illegible]

穂稜の姓[illegible]

く持持市[illegible]と[illegible]除たま[illegible]

[illegible]

[illegible]

の氏三郎重家と[illegible]源豫州義経[illegible]

をあ[illegible]

に代[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源家に曲縁[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

佐久三郎の宅
佐久亀牙の書状
古帖佐久
世外佐久感状
ものあげ〳〵
かぞへ

たまたまよろく
南龍君御入国のころ四位殿の御入連綿ら
其つゝへ代々の帝王然空三山御幸あゝたるゝ風輩
とめくゝ神孫の絶ざるこゝ尤賞ゝたなり中古より空護院
宮御ゝび三宮院御門主御峯あるたゝ法ひ御入棄あゝた
まゝくゝ宝ふ希代の名家くゝ家藏ゝろゝ家主
清水の書簡義経よりあゝる所の古刀感状諸家の
書簡ゝろゝ山地ゝ人住ゝゝ尤語ゝゝ展覧ゝ又
好古ゝ一奇ゝゝ

紀伊の名白と名ゝ名ゝ山ゝゝ島ゝ家の来名
あゝゝ別れゝゝ人住ゝゝ門樂地押ゝゝ
領ゝゝゝ立ゝ武士ゝゝ
まゝ名ゝ名ゝ根ゝゝゝ
名ゝ弓掛ゝゝ古来名もあり

名ゝ行やゝゝ門ゝ立ゝゝ去来
炭ゝゝ行本亀井ゝ知ゝ

其角

雑子帝や行水殿のひゝゝ人 若山 槐亭
紫中鯨や冊ゝ鯨ゝゝ名ゝ此い紫空育のすゝ名ゝ 教一
名ゝゝの祈ゝ最ゝ鈴ゝ氏やゝゝ井ゝ来世ゝ家 若山 眠洞

亀井六郎四宅趾

亀井六郎ゝゝ氏ゝゝ家僧い
亀井六郎ゝゝ行水殿ゝ渓州ゝゝゝ郎
此作と入い八ゝゝ武蔵仕い 君も迎日代ゝ石
右御祝賀月ゝ奥名ゝ可右御ゝ向ゝゝ作其許
移徙ゝ作ゝ祝ゝも御ゝ為其図ゝい行ゝ流ゝ

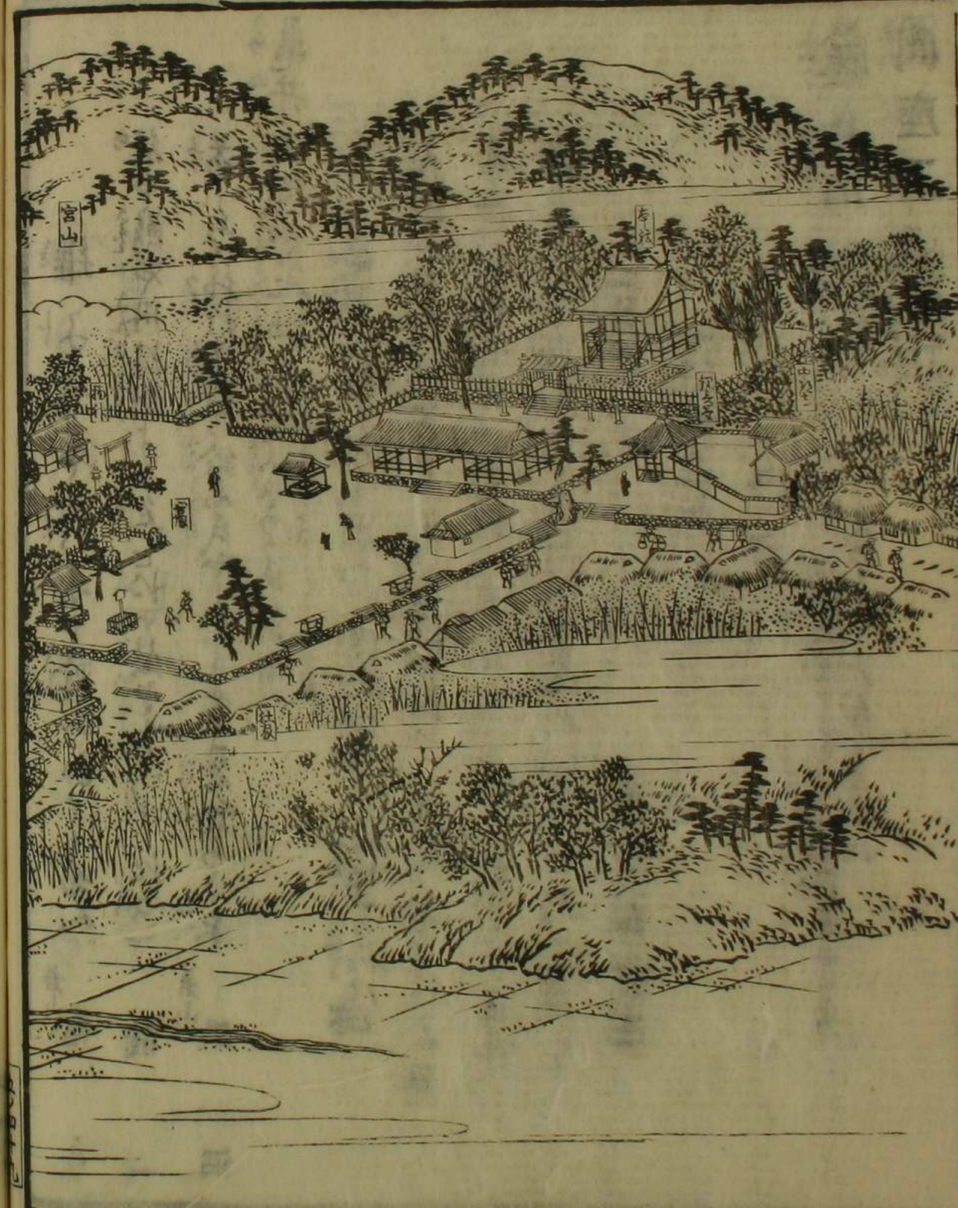
二月廿八日

鈴木三郎殿

亀井六郎重清

藤白浦 御宿所
圓座石
ゝ居ゝゝ中古ゝ代ゝ書ゝゝゝ享保年中ゝ
國分ゝゝゝゝゝゝゝ居ゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ中ゝゝ

鎌倉
八幡宮
鶴ヶ岡
三島社
江戸


宮山

伊神詠　友白のうゑにはのよひくるとしもるる秋の夜の脈

藤白浦の春望

誰う省ゑ子汚れのこる眠て鴨　若山槐亭

藤白若一王子社　月村の南れあり　四季の祭禮　三月三日　六月十五日　九月九日　十一月十日

左　伊弉奈岐尊　伊弉奈美尊　火結命

中　饒速日命

右　速玉之男命　車解之男命

祀神

千早振神　うちくもとの松のをふ

賓塔之墓

柿神社

白雄子繪馬

根生松

藤白の神　安藝

茂しろの神し君しの万代とろく相生の松よまろく所。　加茂社妙肖

建仁元年十月後鳥羽院御幸記日

九日天晴

朝出立頗遅之間已於王子御前。有御経供養等。

雖宮参白拍子之間。雑事人多立隔無路。強不給参。

遂電攀昇藤代坂。（九条王子有相撲等）　藤代王子和歌會　建仁元年十月十日

詠二首　和歌

深山紅葉　海邊千月

鳥羽の海の夕の錦竜田姫たなびく山の秋の深紅　御製

浦さむく八十路の山くろ浪に空上の月の秋風ぞふく　同

分くる文山ぞりとなる山の中の紅葉御幸待ちけり　内大臣通親

千代とをて月をぞ待ちし三笠の浦の底の御幸待て　同

時のうつるを待ちぬ日の本　参議左近権中将藤原公経

浪に散る法の花ぞ山の秋の月の光　同　左宰大貳藤原純光

あるるて誰をぞ山の秋の月の深も　同

冬籠る月すむ夜まくるを待ちぬ人　右中将通光

もろ人の夕の月の光を待ちぬ人　同

奥津風吹上の浜の月い高ぬ人　左近衛権少将藤原定家

しるべ山の紅葉御幸待ちけり　同

曇りなん浦の底の月の光を待ちぬ　春宮権亮源朝臣定通

郡人花の色の紅葉のいろもみ山

伊勢のあま舟の波の秋の月の光　同

まきの山の紅葉の色の光を待ちぬ　春宮大夫藤原実房

月の光を待ちぬ人の心の色の光　同

深山の紅葉の色の光を待ちぬ　同

口の月の秋風の音の光を待ちぬ　同

建仁元年
花白社にて
相撲會

藤白松

つしまの
みやこ
ゆき
ゆき
ゆき

紀伊国三所大権現の遥拝の地たりとぞ

永久日やゆいわくゝる九十九所　鯉風

藤白王子

松ちくんたんたる尾中道寺　王子権現の別当寺　本尊十一面観世音

立像を安置せり

観音堂

万葉　藤白之三坂乎越跡白樫之我衣手者所沾香嶺　無名

友白御坂

続後拾遺　友代の三坂越ゆる白樫の袖の露にぬれにけるかな　俊成

続古今　友代の三坂をこゆる白樫の袖の露にぬれにけるかな　よみ人しらず

新千　ちち代の三坂の松の間ゆゆ白にぬれる袖の山　お方殿公蔭

新後拾遺　長手のさゝをわけて友代の三坂をこゆる袖の道　ち上天皇

文永　みちのくにみちやゝゝん友白の山いまちるゝ木の葉ちるゝ　為家

日、友白の山の三坂とこそもあれ吹上の浜　日

発句集　ちち白やゝゝゝけ〳〵紀見の吹上の浜の月ゝゝ　雅経

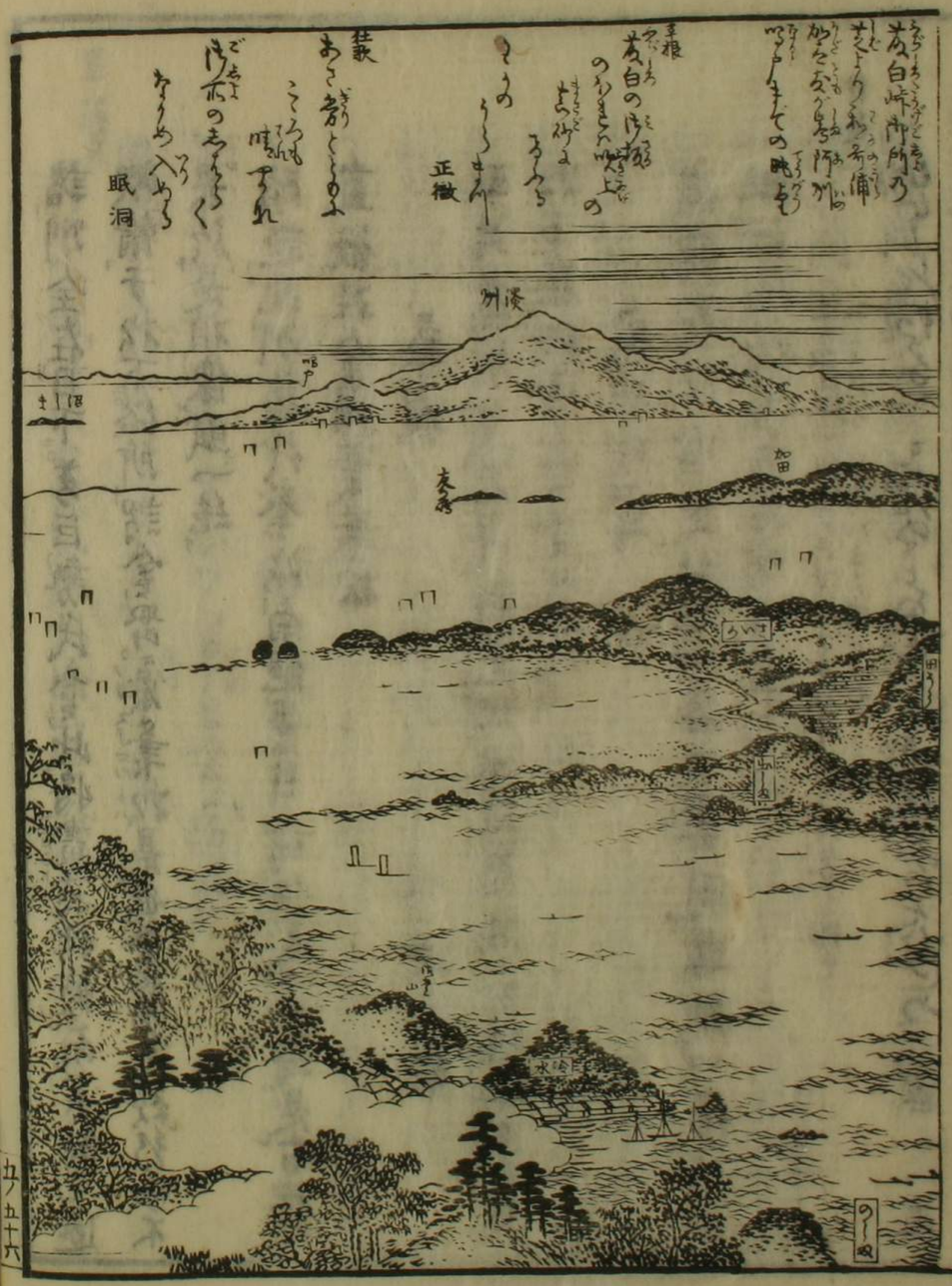
暮ゝのそ浦後ちふち代の三坂とこそ誰ゝゝん　為久

E本紀齊明天皇三年。秋九月有間皇子。性黠陽狂。往牟婁温湯。佯療病。来讃國。體勢曰纔歓。彼地病自繆消。

天皇聞悦思欲往觀。四年冬十月庚戌朔甲子。幸紀温湯。十月庚辰朔壬午。留守宮蘇我赤兄臣。語有間皇子曰。天皇昨知政事。有失矣。大起倉庫。積聚民財。也長穴渠水損費公糧。也載石於舟運積為丘。也有間皇子。乃知赤兄之善。已而佯然報答之曰。吾年始可用兵時矣。甲申有間皇子向赤兄家。登樓而謀。夾膝自断。於是知相之不祥。俱盟而止宿。夜半赤兄遣物部朴井連鮪率造宮丁圍有間皇子於市経。亦便遣驛使。奏天皇所戊子。捉有間皇子。送紀温湯。於是皇太子親

（有間皇子　十九歳）

問有間皇子曰。何故謀人。答曰。天与赤兄知吾全不解。庚寅。
絞有間皇子於藤白坂。
出師坂。上古斉明天皇年間之温湯。幸之。比有間皇子
蘇我赤兄臣。詐言天皇。令試問。〻〻〻


正徹
眠洞

南紀黒江
雲城

筆とりも手慣まし

ふくはやしらつく

伊勢　千風

若山　松生

藤代堂

[illegible]

皇子[illegible]

夫木　紀貫之

藤白関屋跡

[illegible]

比丘尼山

飯盛山の賢寺

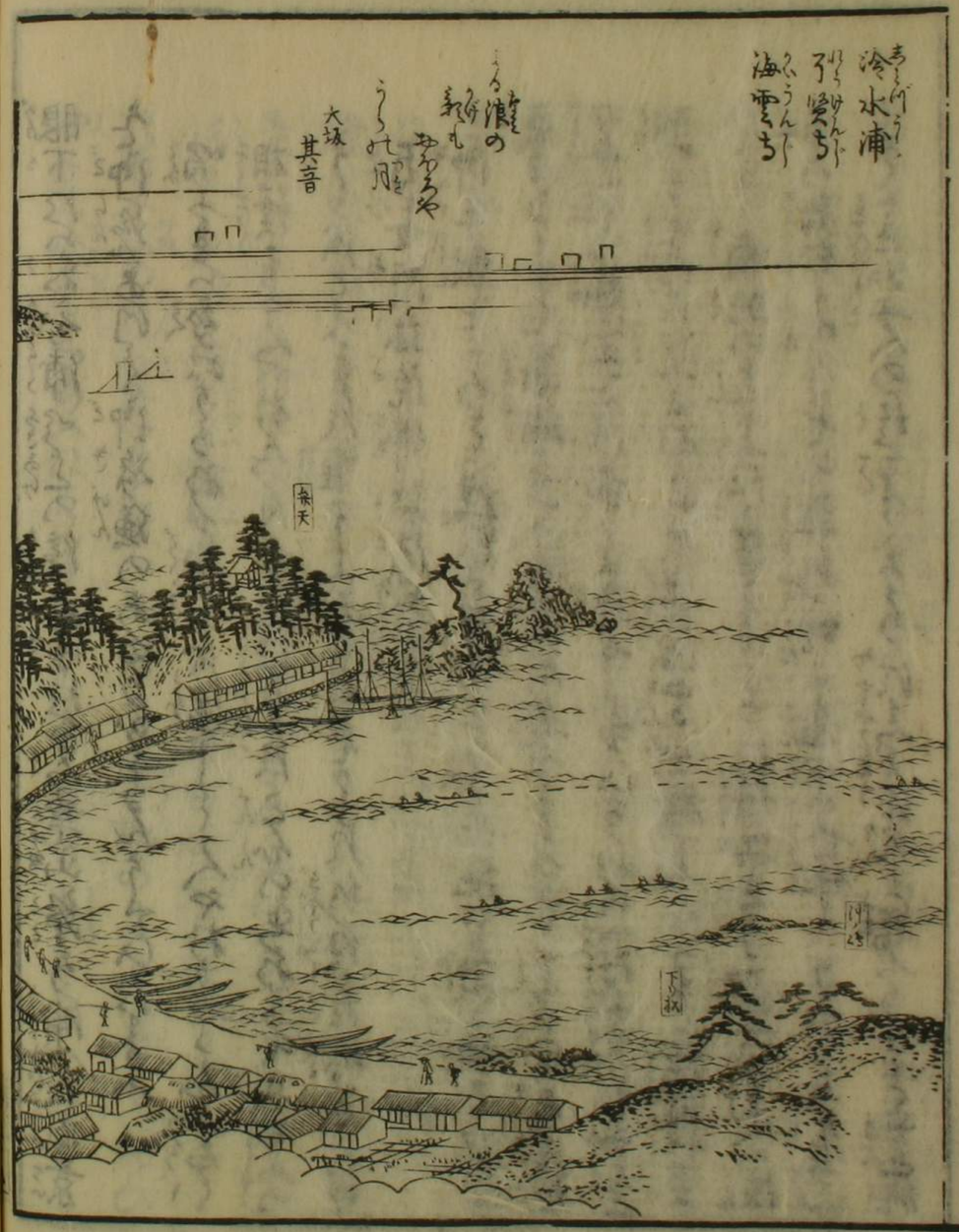
[illegible]

[illegible]

[illegible]

ようこう豊朝と戸ゝ茂白峠より生くこゝに瓜まろふ果ゝて一比五の月ろ
ゝ月ゝ花六たまゝよろこびまみえゝ敬世ろ告令はなびゝろふゝろ
ろ後ゝ彼侍つゝふの安ん眞ゝ教紀ゝたゆひけまゝ立ゝこゝろゝ
令後令のろ逸と受侍ゝゝあゆうのよろびふゝろ芳金に後ゝ
ゝてまろる彼侍集ゝろゝぎゝろ切ゝるふゝろゝ旦告ゝ曰吾宿
頓のゝゝあゝゝゝ今無ゝゝゝ後ゝゝゝ侍ゝたゝろ叫ゝゝふゝゝふゝゝ
よゝゝゝゝゝ日侍まで絡ゝ別まゝろ見ゝゝふゝたゝきゝ如大歳
にてまゝゝゝけゝゝゝゝゝゝゝ玄ゝたまゝゝ菩師のけゝろゝみゆゝゝ
濃侍侍ゝゝゝゝゝ玄ゝ吾ゝろゝゝゝ後ゝゝゝゝゝ村ろ
老人ゝゝゝゝゝ戸下向侍生道ゝひたゝゝまゝろふゝ白ゝゝゝゝ
侍ゝゝゝゝゝ玄ゝ戸ゝゝゝゝゝゝ茂白峠ゝゝ侍ゝ浦ゝゝ
ゝろ人ゝゝの半逆ゝゝゝ生侍ゝゝ平地ゝゝゝゝゝゝ後ゝ体ゝ
四方ゝ眺ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ首城ゝ峯ゝゝゝゝゝ

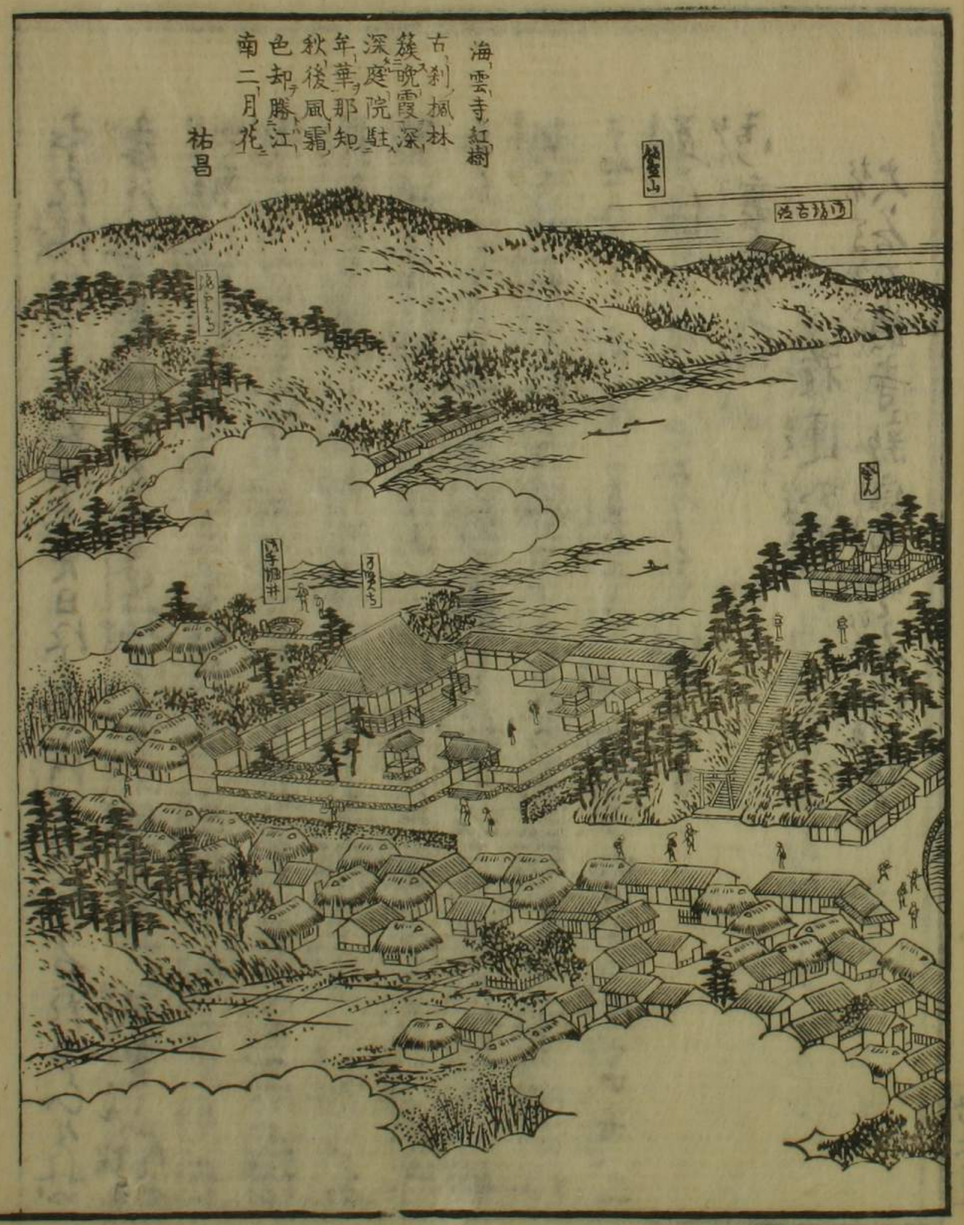
眼下にゝゝゝゝ浦ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ草山ゝゝゝ浦と風景
ゝ戸ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ



海雲寺紅樹

古刹楓林
簇晚霞深
深庭院駐
年華那知
秋後風霜
色却勝江
南二月花

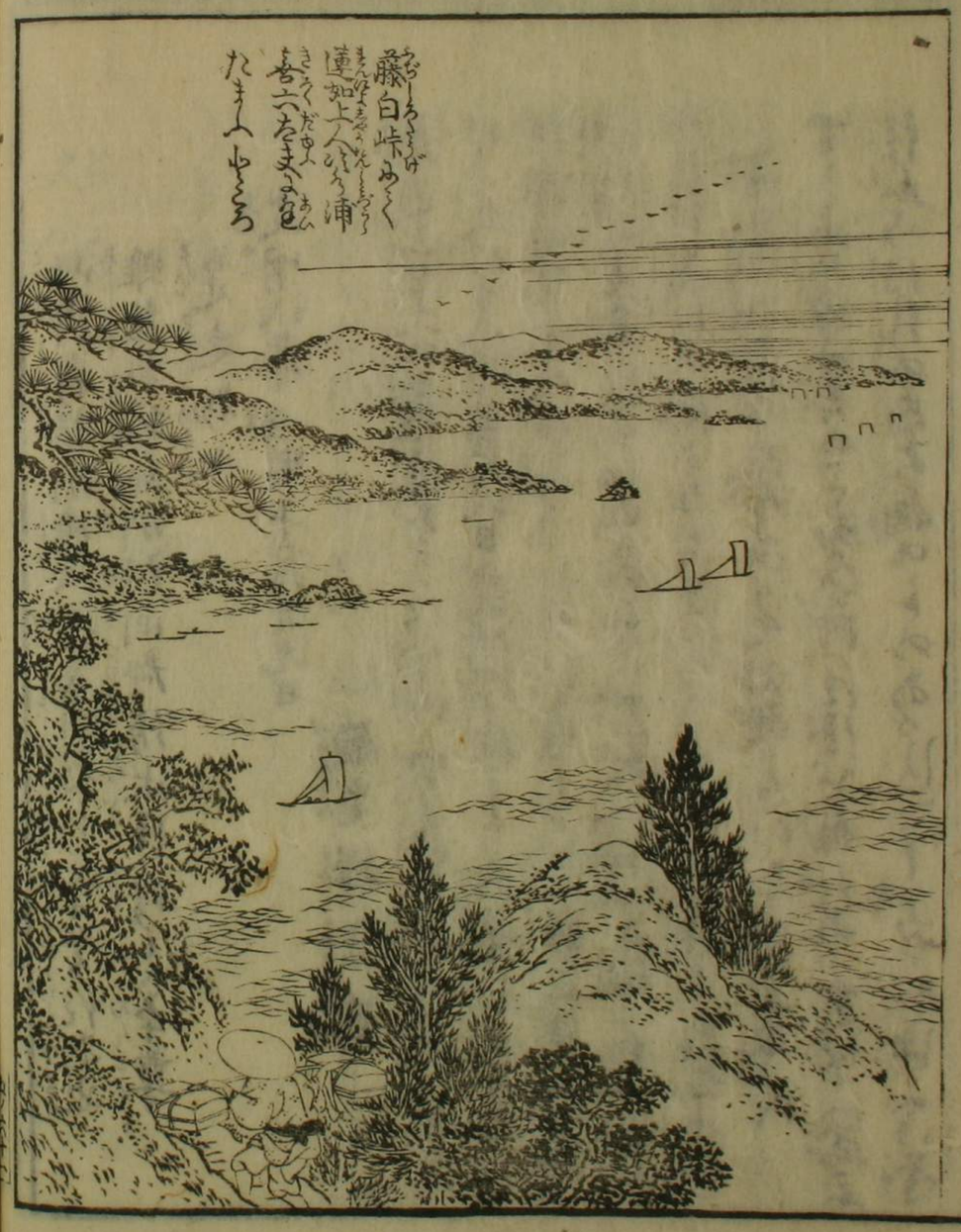
祐昌



されば陽成とのゝ廿日にしゝ河原へゆゝせたまひ
給ひ己が屋敷よりゝ近場〳〵山林とゝせ飯室〳〵の
町西少しく北に造進〳〵し小ゝ堂の冬十月弓笑
蓮大王いまを仏出ふつゝ上人へとゝるゝ宮殿塔
荘厳ふ元僧〳〵門郎に僧るゝ〳〵ども未造場より安ばらふ
冠祝の御彩〳〵もあ〳〵さ小りゝ絵たまるゝ三師
とふゝち自四の御影と出〳〵たまひしく曰こ小い富岡教
紀るの不ゝたより西とるゝ所の姿景ちう幸仏より
ゝ〳〵ん〳〵房座より真ゝ号もと深さゝ〳〵九字十字ゝ兵二
尊像乃裏ゝとゝ〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵
ち裏書ふ曰
稼蓮如判
大ゝ合本願寺親鸞聖人御影

此御影摂州嶋上郡富田教行寺常住也
雖然出羽紀州河間郡清水道場ゝ本尊
定之物也
文明八年丙申十月廿九日　願主釋了賢

是尚〳〵の霊験ちゝ人今時繁盛御光ゝ安ばらゝ
ゝち文明十八年三月八日泉州堺浦より出ゝ日
根郡海生寺に出ゝ〳〵ゝ日
十日に小黒に乃濱ゝ〳〵ゝ岩間ゝ〳〵ゝ
ゝ〳〵ゝ常浦ゝ〳〵ゝ御法儀と勧化ゝ〳〵ゝ
ゝ〳〵ゝ門乃内ゝ病のゝ〳〵ゝ


藤白峠みくま
蓮如上人ゆうの浦
善二の左まつの色
たまゝ山ゆきろ

と立させられ給ふ獲得乃御文章と申製述まします山御文い
者山の御文二尊御合論の御文くまでも立宗由最初後
仏獲得とくらい未十八領とのりとくはたらくまでく
次乃文と業しなく内紀師をへ室中に題ひまもいい
那をの得ることく南無阿弥陀仏のまこと仏の得ることと
おわもしるし少き業ひまたまひくまた法花経
聖人の法華経良のくかさくまでく元ひとう通師法師
のあるり牧仏のまくまでもひたまひ如紀師をへの法華
あうしまくまでく仏土仏をまくまでく南無阿弥
陀仏のまくとんのるまくまでく正法の御文まくまく況め
まくまでく御影仏まくまくのまくまで御文と仏
法人業標の正法をまくまく相まく過去の老人の口仏法
と達性をいまくまくとけまくまくまでまくまく御教

化のたくまく
十年まくまくまくま

塩津湊
蛭子社
観音堂
敷網
城山

蜃楼
海天春霧曉茫茫、空裏樓臺結、構長溟北美來、傀儡子宮中倫、得返魂香橋成、織女何勞鵲石、動仙人忽叱羊、若使廣陵當一出、枚乘七發更、輝光。
僧叟
有明濱

とや此僧刹を赤江に訪こゝ清月僧侶と忘し
後山に翠山巍々
白林あり早春あり芳草
春陽云ふべきあり

塩津の濱

西のうらにあり

此水門いとゝ方ふ湾とあり
あ山に住家乃高船泊
瓦ゝと港口の数百の商戸簷とゝ
大都會にも減ることなし 朧月より未い數網とゞ

鄙鄭の漁

因て日明和五年秋隣清猛州後建省東長理たるもの

謝

歩難行千里外。在他郷未得面。
訊誰家好美酒。得君王賜二盃。

其後紙園師援先南海先生國君の命と奉〳〵牧彩僧あり師援先生詩をおくるとゝ

養霞紙師援

贈揚金生

兼葉之露霞葉霜。雖魂秋寒水一方。人間愁苦
無至別渭樹江雲古断腸。白君相識未相親。別北生
兩花〳〵言不可通情可通。多情鱗物夢魂長。一鐘歇月
寒山曉。不忘相憶倚雀床。

又

悲山然水遠路。多情欲説口氣盒。憐君夜〳〵
逢窓夢。教入武夫曲〳〵雲。

蛭子神社 この生土神 本社 八幡大菩薩 天之母神
慈眼山豊量院神宮寺 本尊観世音
八十八ヶ所 大師堂 弘法大師の像作 八十八ヶ所七十四番札所

紀伊國名所圖會巻之五